

平成28年3月10日

1. 出席議員

議長 杉原豊喜
1番 豊村貴司
3番 朝長勇
6番 松尾陽輔
8番 石丸定
10番 上田雄一
12番 古川盛義
15番 末藤正幸
17番 吉原武藤
19番 川原千秋
21番 松尾初秋
24番 谷口攝久

副議長 吉川里己
2番 猪村利恵子
4番 山口等
7番 池田大生
9番 石橋敏伸
11番 山口裕子
14番 山崎鉄好
16番 宮本栄八
18番 山口昌宏
20番 牟田勝浩
23番 江原一雄

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局 長 友廣秀敏
次 長 川久保和幸
議事係 長 江上新治
議事係 員 杉原啓仁

4. 地方自治法第121条により出席した者

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 市 | | 長 | 小 | 松 | | 政 |
| 副 | 市 | 長 | 前 | 田 | 敏 | 美 |
| 教 | 育 | 長 | 浦 | 郷 | | 究 |
| 技 | | 監 | 松 | 尾 | | 定 |
| 総 | 務 | 部 | 北 | 川 | 政 | 次 |
| 総 | 務 | 部 | 中 | 野 | 博 | 之 |
| 企 | 画 | 財 | 平 | 川 | | 剛 |
| 営 | 業 | 部 | 井 | 上 | 祐 | 次 |
| 営 | 業 | 部 | 千 | 賀 | 耕 | 司 |
| 営 | 業 | 部 | 小 | 田 | | 修 |
| く | ら | し | 大 | 宅 | 敬 | 一 |
| ま | ち | づ | 山 | 下 | 朋 | 彦 |
| 山 | 内 | 支 | 橋 | 口 | 一 | 夫 |
| 北 | 方 | 支 | 松 | 本 | 重 | 男 |
| 会 | 計 | 管 | 村 | 山 | 美 | 智 |
| こ | ど | も | 溝 | 上 | 正 | 勝 |
| こ | ど | も | 諸 | 岡 | 隆 | 裕 |
| 上 | 下 | 水 | 笠 | 原 | 孝 | 久 |
| 総 | 務 | 課 | 水 | 町 | 直 | 久 |
| 財 | 政 | 課 | 松 | 尾 | | 徹 |
| 企 | 画 | 課 | 古 | 賀 | 龍 | 一 |
| | | 長 | | | | 郎 |

議 事 日 程 第 4 号

3月10日（木）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

平成28年3月武雄市議会定例会一般質問通告書

| 順番 | 議 員 名 | 質 問 要 旨 |
|----|------------|--|
| 11 | 6 松 尾 陽 輔 | 1. 教育行政について 1) スーパー食育スクール事業の効果と今後について 2. 人口減少の歯止め策について 1) 空き家Bank状況と住宅政策について 3. TPPへの対応について 1) 市内への影響について（農林水産関係） 4. 観光案内について 1) Code-Ex（コードエックス）の活用を |
| 12 | 20 牟 田 勝 浩 | 1. 周辺部対策 2. 観光について 3. ふるさと納税について |
| 13 | 7 池 田 大 生 | 1. 市政運営について 2. 教育行政について（図書館と教育改革） |
| 14 | 23 江 原 一 雄 | 1. 地方創生と原発問題について 2. 図書館問題について 3. 市長の政治姿勢について 4. JR九州三間坂駅無人化について |
| 15 | 18 山 口 昌 宏 | 1. 環境問題について 2. 教育問題について 3. 市長の政治姿勢について |

開 議 9 時

○議長（杉原豊喜君）

皆さん、おはようございます。前日に引き続き、本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

それでは、日程に基づきまして市政事務に対する一般質問を続けます。

日程から見まして、本日は18番山口昌宏議員の質問まで、終わりたいと思います。

それでは6番松尾陽輔議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんおはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、6番公明党松尾陽輔の一般質問をただいまより始めさせていただきます。今回は4項目質問通告をさせていただいているので、早速質問に入らせていただきます。

まず最初に教育行政のスーパー食育スクール事業の効果と今後について、具体的には若木小学校で実施をされました本事業に対する評価等及び今後の取り組みについて、御見解をお尋ねしていきたいと思います。

2つ目には人口減少の歯止め策について、空き家バンク状況と住宅施策について、具体的には空き家対策とウェルカム武雄ハウスの若木分譲についての今後の方向性について確認をさせていただきます。3つ目にT P P（環太平洋経済連携協定）への対応について、武雄市への影響と対応をお尋ねさせていただきます。最後は観光案内について、C o d e - E Xの活用の提案をさせていただきます。

それでは早速、教育行政のスーパー食育スクール事業の効果と今後についてお尋ねをさせていただきます。若木小学校で、文科省の2カ年事業としてスーパー食育スクール事業が実施されました。1月29日には若木小学校で実践発表会がありまして、私も参加をさせていただいた中で、県内外から数多くの参加がございました。

その中で高い評価と実践をされた若木小学校の山崎校長も、本事業を通して若木小学校から将来の食育の姿を提案させていただいたと、大きな効果を発信されております。市長、教育長も機会あるごとに本校に訪問をされた中で、2年間のこのスーパー食育スクール事業を教育長としてまずどのように評価をされているのか、まずお尋ねをさせていただきます。よろしく御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

（モニター使用）おはようございます。若木小学校での食育事業につきまして、その評価について申し上げます。今お話にありましたように、スーパー食育スクール事業ということで全国30地域ほどでの事業でございます。株式会社タニタとの連携ができて、食事調査ソフトというのを開発してもらいました。活動量を調査——これ歩数でありますけど、活動量の調査で歩数の計測です。それから、体組成計による測定、ここがタニタとの連携で、体

組成計を持ち込んでの測定でございます。このような形で、子どもたちの食事の実態がタニタの中できちんとした統計として連絡をされました。それを見て改善を続けていくということでございます。そういうことで昨年9月、ことしの12月に比べますとどの項目におきましても主食、主菜、副菜、果物、牛乳等々いづれも改善が見られているという状況でございます。

一番の評価としましては、最終的な食の自立、自分の食をどうするかという、生涯にわたる食の自立の意識化が小学生なりにできたのではないかというふうに思っております。それもお話にありましたように、若木小学校区、家庭地域との皆さん方との連携が強固にできたと。協議会には区長さん、公民館長さんにも入っていただいて、小学校にとどまらず食を考える場合どうしても家庭との連携も必要でありますので、そういう面で体制を組んでいただいたことということが最もよかったことかと思っております。北中学校への講演会等もしまして、連携を図って推進をしていただいた。それからもう一つは、1人1台のタブレットが連動して活用できたということでございまして、1人1台あつてのことであつたというふうに思っております。

そういうことで、これまで食育はいろんな大事さが強調されてきましたけれども、数値として見える化を図ることができて、その効果が非常に高まったの注目であつたかというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

教育長も高い評価をしていただいていると思っております。そういった中で、先月の17日ですか、佐賀新聞でも大きく食育の効果、食育によって食生活が改善されたということで、佐賀新聞でも大きく取り上げをされておりました。

そこで1月29日ですか、当日配付された実践発表会の資料を、ちょっと時間をいただきながら紹介をさせていただきたいと思っておりますけれども、山崎校長先生がですね、皆さんちょっと聞いていただければと思っておりますけれども、学力という言葉はよく使いますが食力、望ましい栄養や食事をとること、食物の品質や安全性を判断すること、食事に対して感謝すること、食文化を尊重すること、食事の喜びや楽しさを実践することの食力の言葉は、なかなか世間には出てこない。ここであえて言いますと、学力と同様に食力も大事です。なぜなら、食なくして私たちは生きていくことができないからです。本校の児童は食力が向上しましたということで、明言をされております。

そういった中で、児童の声をちょっと紹介させていただきますと、小学校2年生が、僕は郷土料理がなかなかわからなかった。しかし今から、目、耳、鼻、口、心で感じて食べます。小学校2年生が心で食べますという表現を感想で書いているわけですよ。あるいは4

年生は、昔の人たちはいっぱい知恵がある、工夫がいっぱい詰まってる、野菜とか料理に詰まっていると。それを何とか今後も伝えていきたいと。あるいは、郷土料理は食材そのものの味がすると。私に子どもが産まれたら、つき一団子汁って皆さん御存じですか。私も以前食べたことがあるんですけども、そういった郷土料理をぜひつくって私の子どもに食べさせたいという感想を子どもたちが書いているわけです。

あるいは、もっとすばらしいコメントというか感想が、笠原さん、樋渡さん、原口さん、豚や牛を育ててくれてありがとうございますと。私たちのために豚や牛を育てて、私たちに豚や牛をもらい、私たちは生きていますと。その肉をおいしいと食べています。私たちはこれから命を大事にしくちゃということまで感想で述べています。最後ですけども、同じような形で牛や豚を大切に育てていらっしやっただので、牛や豚の命をいただいている私たちは、牛と豚の命に感謝して肉を食べたいです。動物だけじゃなくて野菜にも感謝しますというすばらしい感想を、この事業によって子どもたちが——要は2005年ですか、食育基本法の目的としては、食育によって健全な心身を養い、また豊かな人間性が育まれていくという、まさにこの感想の中で子どもたちの心が育まれたんじゃないかなということで非常に今回の事業を私は高く評価をさせていただいております。

そういった中で、保護者からも約9割以上の方が食への関心が変わったというコメントが出ております。そういった形で保護者、また地域、子どもたちを巻き込んだ、今回の2年間の事業でございました。

ただこれが、ことし3月で文科省の事業が終了をいたします。今後終了に当たって、若木小学校へ事業の支援と、せつかくこういったすばらしいノウハウをいただいたわけですので、また成果も、教育長もおっしゃったとおり成果も出ている中で、ちょっと、全小中学校にはタブレット、ハード面はもうあるわけですから、ただシステム面といいますか、そのタニタとのそういうふうな関係の今後の対応をどうしていくか、ちょっとその辺が課題となりますけれども、ぜひこれを機会に全市町村、全小中学校に取り組みを切望させていただきますけれども、教育長の御見解をお尋ねさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

知・徳・体の基盤に食をおくということが食育基本法の考えでございましたが、今お話にありましたように、心をも育てた食育の事業をしていただいたと思っております。若木小学校で実践された中でワークシートとか、それから食育ノートというのがありましたが、そういうのは各学校でも使えるように、こういう形で全校に配布をしてもらっております。どの先生でも使えるような形にしております。そういう面ではこの継承、発展はできるだろうと思います。

お話にありました、システム導入による成果が非常に大きかったわけで、これについての補助はなくなるわけでありますが、タニタさんにとりましても、これまでで初めての取り組みということで、非常に高く考えてございます。そういう意味で、そのシステム導入に関しての予算等がどれぐらいのものなのかというのを今交渉中というところでございます。可能な限りで、この成果を生かしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひ、よろしくお願ひしたいと思います。佐賀新聞の論説にも、食は人間として生きる力を育むということで、武雄市の小さな学校で芽生えた大きな成果、若木小学校 77 人ですから、全校生で 77 人の小さな学校で芽生えた大きな成果をさらに広げていきたいという論説のコメントも出ております。市長、教育に力を入れていただく市長として、もう一度その辺の方向性を、御見解をお尋ねしたいと思いますけれども、御答弁をよろしくお願ひいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

おはようございます。先ほど議員がおっしゃったとおりですね、やはり食の改善だけではなくて人の心の改善、感謝の気持ちを育むというところまで波及するというので、素晴らしい事業だと思っております。今あるノウハウについては、ぜひ広げていきたい。

システムについては、先ほど教育長も申しましたけれども、パッケージでそのまま入れると、かなりのお金がかかってくるというところがありますので、本当に、今のシステムの部分で真に必要な部分はどこなのかというところを、今先方とも話を進めているところで、まずはそこをしっかりとやっていきたい。いずれにしてもできる限り、これについては広げていきたい、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひよろしくお願ひを申し上げながら、食と健康とは深いかわりがあるということで、もう皆さんも御存じかと思います。

また生活習慣を改善することで、がんの予防にもつながるということを今言われております。2月の6日でしたか、小学生のがん教育とがんの子どもということで、シンポジウムが開催をされております。そこに大人のがん予防ということで、今回事業を实践された若木小学校の菖蒲先生が、食育を通して生活習慣を改善する取り組みということで発表をされております。

そういった中で武雄市も、がん予防に対しては市長の英断といいますか、わかもん健診でピロリ菌の検査を導入しようということで、ピロリ菌が胃がんの原因ということで、私も一昨年から質問の中で、ぜひピロリ菌の検査を導入していただきたいということで話をさせていただいて、昨年からはピロリ菌検査を実施していただいて、このピロリ菌の検査の結果どのような数値結果が出ているのかどうか、まず確認をさせていただきたいと思います。御答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

大宅くらし部長

○大宅くらし部長〔登壇〕

おはようございます。ピロリ菌の抗体検査につきましては、平成 27 年度からわかもん健診の対象であります、20 歳から 39 歳の受診者の方に実施をいたしております。受診者の数は 303 人で、そのうち要精密者が 62 人、受診者の 20.46%という数字です。そのうちで、精密検査を受けた方が 24 名で、その中でも除菌指導につながった方は、ことしの 1 月末現在で 20 人という結果でございます。精密検査を受けられていない方につきましては、現在受診を勧めているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6 番松尾陽輔議員

○6 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

303 人受診されて 62 人見つかったと。約 2 割ですね。そういった中で、ピロリ菌の除菌をすれば胃がんがなくなるということで国も認めているようですので、ぜひ効果が今後あるかと思っておりますので続けて、いろんな形で PR をしていただいて、ぜひ受診ができるような形で取り組みをしていただきたいと思います。

ただその検査の方法について、もう少し私のほうから深くちょっと突っ込んで御提案をさせていただきたいと思いますが、現在のピロリ菌の検査、リスク検査ですけども、尿検査で陽性、陰性の検査になるんですけども、それ以上に胃がんのリスクがよりわかる ABC 検診という検査があるわけですよ。そこまでしていただければ、例えば ABC 検診は今の検診とどこが違うかというのは、血清のペプシノーゲン検査まで入っているわけですよ、ABC 検診の中で。せっかく今の検診をされている中で、もう一步踏み込んだ ABC 検診をすることで、もっとその胃がんに対するリスクがわかる検査が現にありますから、隣の嬉野市もこの ABC 検診を導入されて、非常に効果があっているということが出ていますので、ぜひ——胃がんの発症率が、がんの部位で 2 番目ぐらいに胃がんの発症が多いもんですから、これをぜひとも、そういうふうな 2 割ぐらいの除菌の対象者が出ていているというふうな状況の中で、ぜひ ABC 検診のほうに変更していただければ、よりよい効果が出てくるかと思っておりますけれども、御見解をお尋ねさせていただきます。どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

大宅くらし部長

○大宅くらし部長〔登壇〕

ピロリ菌の抗体検査につきましては、27年度、今年度始めたばかりの事業でございます。まだ評価結果というのが出ておりませんので、もう少しお時間いただきたいと思っております。

A B C検診につきましては、現在委託機関におきましては、検査体制が整っていないということで、環境整備が必要となることから、早期の受診については少し難しいと思っております。まずは胃がん検診の対象者、前の若者、若年者のピロリ菌抗体検査の実施を継続していきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ちょっと検査体制が整っていないということで、それはやむを得ない状況だと思いますけれども、今後ぜひ効果も出ていますから、A B C検診ができるような形でぜひ推進をしていただきたいと思っております。

それでは次の質問に、2番目の質問の人口減少の歯止め策についてお尋ねをさせていただきます。なかなか、人口減少に歯止めがかからないといえますか、もう若木町でももう1,700人を切ろうかとしております。そういった中で、日本も国勢調査以来初めて日本の人口が減少したということで報道もなされておりました。ただ、人口減少に伴って空き家も急増しております。私の近隣でも将来的に、ここも空き家になるんじゃないかということがあちこち見られる状況の中で、きのうも空き店舗がもう増加傾向にあるということで質問もあつておりましたけれども。

空き家調査が実施をされたと思っております。そういった中で、空き家が今どのくらいあるのかどうか、1人住まい、あるいは高齢者の2人住まいの世帯も非常に多い状況の中で、5年、10年後の空き家の実態というか、予測あたりはどのような形で行政として把握されているのかどうか、ちょっと確認をさせていただきながら、あわせて19年度からその定住、移住に対する支援制度も実施をされて積極的な取り組みの中で、空き家への移住定住も実績として出ているかと思っておりますけど、あわせて空き家の今の現状と、空き家を利用されてどのくらいの方が移住されてきたのかどうか2点御答弁を、まずお尋ねをさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

おはようございます。それでは先ほどの空き家調査の結果と、今後の見通しということでございますが、昨年9月に地方創生交付金を活用した事業として空き家情報調査を実施いた

しておりまして、これが12月から実施をしておいて、ことしの3月まで工期をしております。ですから、まだ調査結果が出ていない状況でございます。ただ平成24年度の調査では430件ということで概数ありますけれども、それ以降年も経過をしておりますので今年度、調査ではさらにふえるということで考えております。

また今後の空き家の戸数につきましてはですね、武雄市の一人住まいの独居世帯の高齢者世帯が平成23年で1,987世帯あったのが、平成27年現在では2,419世帯という状況で確実にふえておりますので、今後この空き家というのは、5年後、10年後さらに増加をしていくのではないかとこのように考えております。

もう一つですが、定住特区の補助金についてということで、きのう川原議員さんのほうにもお答えをいたしました。平成19年度から27年度までということでの新築、空き家あわせてこの補助対象となったところが112世帯、世帯員にしまして333人でございます。補助金合計としては4,900万と。で、その中で空き家については62件170名、新築については50件163名と、そういう状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

非常にですね、まだ今年度の調査、空き家の結果は出ていないけれども、24年度で430件ですか。今後——先ほどですね、また高齢者1人住まいももう2,400世帯というような状況の中で、非常に今後急増というか、人口減少とともに空き家という、大きな周辺部というか、地域の課題も山積みな状況だとよくわかりました。

ただそういった中で、空き家に62件の170名の方が定住移住されたということで、非常にぜひともそういうふうな形で空き家の情報発信をしていただきながら、定住移住を進めていただきたいということで、私もいろんな形で情報発信させていただいておりますけれども、一方で空き家バンクの登録が非常に件数が少ないということで、ホームページも空き家の情報が載っていますが、なかなか空き家バンクへの登録が少ないような気がいたします。

理由は仏壇があると。昔からの風習といいますか、仏壇があると。年に1回はやっぱり墓参りに行って、仏壇がある。あるいは家が老朽化していてそのバンクの登録まではできない。あるいはもう不要品を片付けしてまでは、なかなか空き家バンクへの登録ができないといういろんな理由があるかなと思います。

そういった中で、一方で空き家が急増する中で、空き家バンクに提供していいよというのが、なかなか登録件数が少ない、先ほど言ったようにこういった理由があるかと思っておりますけれども、担当部署ではどういったところに原因があるのかどうかを把握していらっしゃると思いますか、どういうふうな形で認識をしておられるのかどうか、ちょっと確認をさせていただきたいと思っております。御答弁をよろしく申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

空き家バンクにつきましては、現在お住もう課でお住もう部屋というページをつくりまして、広く募集をしているところなんですけど、現在 28 年度 3 月 1 日現在では 9 件と非常に少ない状況でございます。ただ平成 19 年からこの取り組みをやっておりまして、成約件数は 37 件ございました。

私たちの PR 不足もあろうかとは思いますが、先ほど議員さんがおっしゃられたように、やはり帰省をするときの宿にしたい、あるいは仏壇を置いているので、そう粗末にできないというふうなこと。それから、相続等の権利関係がなかなかうまく整理できずに簡単にバンク登録まではつながらないと。また、土地と家屋の所有者が違うという状況もあって、なかなか家主さんと土地主さんのお話をつかないということで、簡単にバンク登録というところまではつながらないというふうないろいろなケースがあろうかと思えます。そういった形での認識をいたしております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番松尾陽輔議員

○6 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

私有財産になかなか行政が、ちょっとどこまで踏み込んでいいのかどうか、ちょっとその辺が難しい部分があるかと思えますけれども、空き家家財撤去補助金 10 万円を上限に——なかなか皆さん御存じではないかと思えますけれども、空き家家財撤去補助金が 10 万まで出るわけですよ。先ほど言った、不要品があつてなかなかバンクまでの登録まではという方がいらっしゃれば、この家財撤去補助金を活用して、その辺を整理されて空き家バンクに登録するかというふうな方法もありますから、その辺がなかなかまだ周知徹底が行き届いていないところがあるかと思えますから、ぜひその辺もですね、広報等でもう一回徹底をしていただきながら——要はもう空き家急増の中で 9 件しかないという現実ですね、それはやっぱりどうか、何とか方向というか改善を見出しながら——例えば民泊ですね、体験型にまず来ていただいてしていただくということで、武雄市でも 1 件だけボランティアで民泊をいただいているところがあります。

旅館組合との関係でいろいろ難しい部分があるかと思えますけれども、やっぱり観光で来る方は旅館に泊まるわけですね。ただ定住、移住と田舎に暮らしたいとか何とかがってなっていくと、実際民泊をしながら、そこで体験しながらということで、若干そのニーズと違いますか目的が違いますから、民泊の制度化もぜひ今後検討していただきながら、この空き家対策も、ぜひ地方の重大な課題としての位置づけをもつていただいて、市長、検討すべきだと思えますけれども、市長の御見解をちょっとお尋ねしていきたいとも思えますけれども、いか

がでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

空き家の活用、あと民泊については、国のほうも特区という形で進めているというふうに思っております。やはりこれから空き家の問題というのは、かなり深刻な話になってくると思います。

先ほど、空き家バンク9件ということですが、これは常に動いているという話ですので、これまで成約したのが、確か37件ぐらいあったと思いますので、この時点だけの数字では何とも言えないんですけども、いずれにしましてもやはりここは足で稼いで、そして実際に話をして、その空き家をどういうふうに使っていくかといういわば市役所職員のフットワークというところも問われると思いますので、そういったきめの細かい形で、とにかく空き家の活用を1件でもふやしていくように、そこはお住もう課中心に進めていきたい、そのように考えています。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひよろしく願いをいたします。行政でも今度の土曜日か、3月12日お住もう課での企画の中で企業移住セミナー、今地方があつい、武雄市と竹田市がコラボして、いろんなことが予定をされております。あるいは来週の月曜日、武内町で空き家リノベーションレシピということで、スペイン料理界の巨匠の深谷シェフが来ていただいて、空き家リノベーションレシピということでも企画をしていただいているようですので、参加をしながら大いに定住移住に促進をしていきたいと思っております。

そういった中で、次に周辺部への人口減の歯止め策ということで、ウェルカム武雄の今後の計画についてということで話を進めさせていただきたいと思っておりますけれども、ウェルカムハウスの事業が実施されております。ウェルカムハウスの若木分譲は今こういう状況です。もう若木小学校、若木保育園の前ですね。若木では一等地じゃないでしょうか。今もうA棟、B棟が建って、今は内装工事というふうな状況の中で進んでおりますけれども、若木町にこの1戸建て住宅が2戸ですね。武内町にはアパートが4戸建設中でありましてけれども、そういった中で若木と武内の応募状況と入居状況がどういうふうな形で今進んでいるのかどうか、御確認をまずさせていただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

ウェルカム武雄ハウスでございます。これにつきましては、周辺の人口増の対策として取り組みをいたしまして、地元の皆さんに事業者の選定あるいはその事業地の選定まで大変お世話になりました。それで12月から取りかかりまして、若木に1戸建てを2戸、それから武内にはアパート、これは4戸のアパートですけれども着工をいたしまして、募集をいたしました。

その結果若木につきましては申し込みが4件ございまして、事業者との資格審査といいますか、入居の要件を満たした方々については2戸完売といいますか予約を受けたと。予約状況でございます。それから武内につきましては、申込が現在3件ありまして、入居についてはそのうち2戸が決定をいたしております。状況といたしましては以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

若木は申し込みが4件、もう予約で2件ということですね。武内が3件の2件ということで若木の場合は完売のようですけれども、家賃が3万5,000円ということで——ただ家賃が安い、安価というだけでここにこられただけではないかと思えます。教育環境、または自然環境も定住移住の大きな条件の一つだと私は思っております。

ただそういった中で、ちょっと若木の状況で4件応募があった中で2件と。あとの2件はどうされるのかどうかという。せっかく若木に何とか住みたい、移住してきたいという方がいらっしゃる中でですね、ぜひこういうときに受け入れをするべきだと。やっぱり時期というものがあるかと思えますから。ウェルカム武雄若木の譲渡計画は、そしたらないのかどうか。せっかくですね、4人来られて2人だけ、あとの2人はどうなされるかという部分の中で、先ほど申し上げたように、若木の教育環境あるいは自然環境がいいということで応募もされたかと思えますけれども。

手前に、ここに空き地としてありますけれども300坪ぐらい——それはもう交渉次第でしょうけれども、300坪ぐらい空き地があるわけですよ。ここに何とか手をかけていただいて、受け入れ体制——もう若木を完売ということで実績が出ているわけですから、そういった形ででも——それは当然、今からは東西川登、橋がですね、このウェルカム武雄のアパート、あるいは1戸建ての建築計画もあられるかと思えますけれども、こういった形で現に実績が出ている中で、何とかあと——そしたらもう半年後、1年後に、そしたら計画しましょうかということでできないものかどうか。

せっかくの機会ですから、今後のウェルカム武雄の若木分譲はどういった形で検討を進められているのかどうか、ちょっと確認をさせていただきます。まずは譲渡がすぐできるのかどうか、また検討できるのかどうか、ちょっと確認をさせていただきたい。御答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

このウェルカムハウスについては、御承知のとおり対象が若木、武内、東西川登、橘の5町でございます。今回武内と若木については地元の御協力によりましてこういった形で分譲といたしますか、募集をして入居が決まりつつある状況でございますが、若木の譲渡につきましては、今後おっしゃられたように、ほかの橘町、東西川登町の対応もでございますので、その状況等も踏まえながら検討をしていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

当然、先ほど言いましたように東西川登、橘等の今後計画がありますから、その予算を若木町に、それは当然できないかと思えます。

ただそういった中で、ウェルカム武雄ハウス若木分譲は、特に若木町では賃貸住宅建設へのきっかけづくりだったと思うわけですよ。初めての賃貸住宅をこういうような形でしていただいて、非常に感謝を申し上げているところでもありますけれども、そういった形で厳しい状況であれば民間会社と——個人情報もありますけれども、承諾をいただければ、入居希望者の情報の共有化といたしますか、そういった形で民間の賃貸住宅建設会社への後押し、あるいは家賃補助による入居の後押しといたしますか、そういった形で民間住宅会社との提携によってその賃貸住宅の建設がまたできないものかどうか。

要は行政はその2戸だけで終わりということではなくて、その先が大事かと思うんですよ。せっかくこういうきっかけづくりをしていただいたわけですから。またそうしていただくことによって、今回のウェルカムハウスの若木分譲の効果がいつそう出てくるというふうな形で思っていますものですから、当然厳しい状況であれば違った形での支援といたしますか、民間会社とのそういった情報の共有化、あるいは家賃補助によって何とか入居していただく環境づくりをいち早く——これを2年後、3年後、4年後先っていうのはなかなか——せっかくここでこれだけの投資を行政でしていただいて、若木町としても何とかこれを起爆剤として、何とか人口をふやそうという気運も高まっている中で、ちょっとした形を変えるような支援でですね、これをよりよい効果にしていきたいと思えますけれども、御見解はいかがでしょうか。お尋ねをさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

この取り組みにつきましては民間と組むという新たな形での取り組みでございました。そ

ういったことで周辺の5町についても同様の対応をしていくつもりでございますが、さらに今度新しく組んだ民間会社との形もございますので、民間会社がお持ちの情報あるいは不動産業界の情報ありますので、そこら辺の情報交換ができるような新たな取り組みもやっていきたいということで、このウェルカムハウスを今やっていますが、この事業の検証もした上でさらに検討をさせていただきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

いろんな事業にも、先ほど部長も言われたように効果と検証っていうような部分が大事かと思えますから効果と検証をしていただいて、あとはどのような形で支援、フォローをしていくかということも大事な部分ですから、ぜひこれを——せっかくの若木の人口増のきっかけづくりをしていただいたわけですので、ぜひともこれを盛り上げて、何とか若木に限らず武雄市全体の歯止め策になり得るかと思っておりますので、どうかよろしくお願いを申し上げながら、次の質問に入らせていただきます。

T P Pの対応について、環太平洋経済連携協定、武雄市への影響額と対策はということで話をさせていただきますけれども、T T P以上にこう、農家を苦しめているのがこのイノシシですね。メッシュ柵も私の区では10キロ網を張りながら、このイノシシを何とか防御しようとしておりますが、猿が2月中旬、私の家の柿の木に——私の写真じゃないですけども、まさにこういうふうな状態で庭先におるわけですよ。今後こういうふうな猿対策にも、非常にイノシシ以上に猿が手強いといいますか——こういった形で早めに対策をぜひともとっていただきたいということをお知らせをさせていただきたいと思えます。

猿はその日のうちにもう5キロも10キロも移動するというふうなことで、当日は若木全部まわって、まわってというか民家に——もう窓も開けられない状態というような状況も出てきておりますし、また果実被害まではどうかというのはわかりませんが、ぜひ早めの対策を——4、5日前のテレビでしたか、女性部隊までつくって、何か猿を追いやってパチンコを撃って撃退をしているというふうなニュースも報じてもありましたから、武雄市もこういうような、今度は猿、イノシシ、鹿もってというふうな話も出ておりますから、ぜひ対策、検討もよろしくお願いを申し上げながらT P Pの話にしていきたいと思えます。

その中で周辺部では、いろんな課題が山積みです。先ほど申し上げました、空き家対策、人口減、地域の維持管理、地域の活性化というような問題がある中で今回T P Pを取り上げさせていただきました。昨年10月でしたか、T T Pが大筋の合意をされております。そして、また国会でも予算委員会でも非常に今回のT P Pの影響について質疑が交わされていたようであります。

私も佐賀県の農林課と話をさせていただく機会があって、国、県の状況も情報もちよっと

見せていただきながら、その日本全体の農林水産関係への影響額、生産額への影響額が2003年は3兆円と言われていました。ただそういった中で、重要5品目の例外措置もあったようで影響額が1,300億から2,100億円ぐらいというふうな試算、影響額が提示もされており、その国に基づいて県内の農産物の生産減少額ということで、県もこういった形の中で小麦は2億5,000万、あるいは牛肉が2億1,000万から4億2,000万、豚肉は1億2,000万から2億2,000万、米、小麦、柑橘類、鶏肉等を含めて9品目で8億2,000万から13億ぐらいの県内の生産額の減少があるんじゃないかということで、県の担当者も言われておりました。

そういった中でなかなか試算には非常に苦労したと、またこれも国の試算の中で県も算出されている状況だったものですから、これを個々にこういう算出していくのが非常に困難な状況だとは私も認識しておりますけれども、こういった形で現にもう合意もなされ、国会でも審議をなされている中で、武雄市としてはどういった形で影響が出るのかどうか、そこまでの検討もされているのかどうか、ちょっと確認をさせていただきたいと思っておりますけれども、御答弁をよろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

おはようございます。試算でございますが、早速国の計算シートを入手いたしまして試算を試みましたが、それぞれの農産物の生産量を把握する際にJAが広域化ということもありまして、武雄市だけの生産量が把握ができない品目がございまして、現在でははっきりとした数字の試算はできていない状況でございます。

したがって、国や県の影響を参考にするという形になりますが、米については御承知のとおり、国産米、国別枠の輸入量に対しまして相当する国産米を政府が備蓄米として買入れるということから、国産の飼料用、食用のこれまでの生産量や農家所得には影響が見込み難いというふうに見解を出しているところでございまして、麦については体質強化対策とか、経営所得安定対策を適切に実施をして、引き継ぎ生産や農家所得が確保されて国内生産量が維持されるということで見込まれております。ただし生産額の減少はあるというふうなことでございまして、武雄市内としてもその他の農産物も何らかの影響が出てくるということは予想されるところでございます。

先日農家の方や農業事情に詳しい方にもお話を聞きましたが、実際のところは発効してみないとわからないということと、それから政府が言っていますそういった対策がいつまで継続されるのかということが不安だというような御意見も頂戴しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

実際ここにどれくらい影響が出るか非常に算出も難しい状況だと思います。先ほど言われたように、米はゼロ、影響がないということで米は国が固有米として備蓄するという、半永久的に備蓄ができるのかどうかと、いつかは放出をするわけですから、最終的には米にも若干影響が出てくるのではないかというふうな部分の中で、直接農家の方も減反で、大豆とかあるいは食料米への転換もしてらっしゃいますけれども、将来どうなるのかということで非常に不安な部分が、精神的にも不安を抱えているのが現状ですから、ぜひとも難しい状況でありますけれども個々に対応していただいて、またいろんな、農家の方々と意見を聞きながら対策を講じていただきたいというふうな形で思っております。

2007年度の農林水産関係補正予算の概要を見ますと、総額で4,008億円予算があるわけですよ、農林水産関係で。4,008億円のうちですね、何と3,122億円がTPP関連の予算ですよ。もう約8割。約8割がもうTPP関連の予算で組まれているわけですよ。

こういった中で、武雄市もぜひですね、こういうふうな形でまだ具体的な影響額がまだ把握できていられない状況かもわかりませんが、現に非常に農家の方々も——特にこう、武雄市内の農家の方々はですね、もう2反というか、もう7畝、5畝ぐらいの小さなところで作業してらっしゃるわけですよ。若木町っていうか、武雄市内で一番多く耕作されている方が4町、5町耕作されているんじゃないですか。ただ、枚数的には50枚、60枚で合わせて5町、6町ですから。ただ諫早干拓なんかはですね、1枚で5町、6町ですから。そこで効率化を図るというのはもう雲泥の差ですね。

こういったことでなかなか効率化で競争力をつける農業経営っていうのは非常に厳しい状況というのは——もう皆さんおわかりになるかと思っておりますけれども、ただ政府も競争力のある農家を何とか政府も後押しをということで、ちょっと大手、大規模農家に目が行きがちかなということで私も思っておりますけれども、もっとうち中小零細企業の方にも目を向けながら対応をということで、私も公明党としても訴えをさせていただきたいとおもいますが、先ほど申し上げたように国も4千億からの予算の中で約8割がTPP関係の予算が確保されております。

また、先ほども申し上げましたようにこういうような零細中小企業の方々も非常に精神的な不安の部分もある中で、武雄市単独で新年度予算の中でも十分な、こういった対策費も組み入れてしていただきたいと思っておりますけれども、こういった形での検討というか、具体的な形での——詳しくはまた次期の定例会でも中身的には質問させていただきますけれども、大枠的に今後の武雄市のTPP関連への取り組みについての御見解をちょっと確認させていただきたいと思っておりますけれども、御答弁をよろしく申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

お答えいたします。国の補正予算につきましては、議員がただいま御紹介いただいたとおりです。特に本市との関係があると思われる事業につきましては、幸いでございますが複数年にわたり使用できる基金方式となっておりますので、今後そういったものを活用していきたいと思っております。

また県のほうでございますが、国の補正予算を受けて今県議会のほうに補正予算を計上されておりました、まもなく成立をする予定でございます、武雄市につきましてはこういった国、県の予算との時間的な関係がございまして、新年度の予算は当初については反映できていない状況でございますが、今後補正予算の事業一覧等も出ていますので、詳しい内容がわかり次第、武雄市のほうの農業者の方、それから農業団体の方と御相談をしながら、できるだけ積極的にそれを活用していきたいということでございますので、その際については補正予算で対応させていただきたいという形になるかと思いますが、議員の皆さん方にまた御協力をお願いしたいというふうに思っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひ、もう今後重要な――要するに佐賀県自体も農業県ですから、また武雄市もいろんなかたちで農業にかかわっていただいている方々が多いわけですから、ぜひともその辺も検討しただきたいと思えます。

要はT P Pを含め農業を続けていくこと自体が非常に厳しい環境になっておりますので、農業、農家の方々が。そこら辺でも手厚く対応していただくようによろしくお願いを申し上げます。要は具体的には次の6月定例会でも、中身的に――ただ私、初めて農業関係の質問をさせていただきました。やっぱり地域に行けば、先ほど冒頭言いましたように人口の問題とか地域の活性化、あるいは何て言うんですか、地域の維持管理、どうしても農道とかため池とかいろんなこともありますけれども、米、野菜づくりが非常に今後は難しくなってくると。これも何とか行政で手助けじゃないけれども、支援ができる範囲であれば何とかというふうな話もいろんな多方面にわたる、語る会等の中でもいろんな相談も受ける中で、ぜひとも農業関係にも今後、力を私自身も力を入れていきながら、農家に何とか活力がある農業経営ができるように支援をと思っておりますので、どうかよろしくお願いを申し上げて、最後の質問に入らせていただきます。

最後は観光案内について、C o d e - E Xの活用ということで話をさせていただきます。C o d e - E Xということで、皆さん初めて耳にされる方もいらっしゃるかと思いますけれども、QRコードは皆さんよくあちこちで見られるかと思います。またあるいは音声コードも見られるかと思います。これは個人カードですね。で、ここにQRコードがついております。そういった形で、QRコード、音声コードは皆さんもあちこちで見られておりますけれ

ども、それ以上に今度C o d e－E Xというのが開発をされているようであります。この音声コードの約3倍。音声コードの改革とも言われているのがこのC o d e－E Xでありますけれども、要は一例ですけれども、多言語、27カ国語に対応した音声機能を備えて、言語の言葉のバリアフリー機能も備えているということではあります。

要は観光案内板に今回、開発されたC o d e－E Xを貼り付けていただいて、例えばきのうも観光誘致の話が出ましたけれども、やっぱり明確な情報提供、おもてなしをすることによって観光客の呼び込みといいますか、やっぱり体制もつくっていくのも必要かと思っておりますので、ぜひこのQRコードの研究もしていただいて観光客増加につなげていただきたいという形で、まずは今回は御紹介と、ぜひ早期にC o d e－E Xの情報を入手していただきながら、取り組みを早急にしていただきたいということをお願いをしていただきたいと思っておりますけれどもいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

やはりこれからインバウンドで来られる観光客の方への対応と、ここが非常に重要になると考えております。まず一つ大事なのは、多言語で情報発信するというのがまず大事かなと思っております。あわせてこういった観光案内ですね。私もC o d e－E Xについては少し調べたんですけれども、今——例えば専用のアプリをダウンロードしなければならないとか、多分これからまだまだ使いやすさという点で発展していくというふうに思っておりますので、今すぐにちょっと導入するというのはなかなか難しいと思うんですけれども、C o d e－E Xの今後の進化というか、そこを見ながら、まさに利用者にとって使いやすいと、この点で資するのであればぜひそこについては導入も検討してみたいと思っております。まずはC o d e－E Xの今後の進化に期待をしております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

今後、市長もおっしゃるとおり、あらゆる産業分野に大いに活用されていくこのC o d e－E Xだと思いますから、ぜひ研究していただいて早期導入のお願いを申し上げながら、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、6番松尾陽輔議員の質問を終了させていただきます。

ここで、モニター準備のため10分程度休憩をいたします。

| | | |
|---|---|-------|
| 休 | 憩 | 9時57分 |
| 再 | 開 | 10時7分 |

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、20番牟田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

（全般モニター使用）20番牟田、一般質問を開始させていただきます。

この画像は先日の雪のときのやつですね。ちょっと見てください。すみません、スイッチをこっちに。失礼しました。

昨日パソコンがちょっと壊れてですね、この画像のほうがなかなか見つけづらかったんですけども、よく考えたら私IT委員長で、パソコンが壊れてこれができないということになるとちょっと恥ずかしいので、きのう遅くまで徹夜でつくりましたので、きょうは頑張っていかせていただきたいと思います。

もう皆さんニュース等々であれだと思っんですけども、3月11日、東北大震災が発生した日です。これは武雄市議会でこうやって行ったときに写したもんですけども、これは仙台ですね。こういう状況のところをずっと、まだ手つかずのところが多く残っている中を有志の皆さん方と行ってまいりました。これは行ったときの集合写真。

こういう中で我々が気づいたのは、やっぱり何か応援したい。応援というのは救いに応えると書きます。やっぱりこの武雄市政においてもいろんな声が上がって、例えば周辺部の声、先日行われた質問で言われていたように福祉の弱者の声とか、いろんな声に応えていくのがこれから市政を担っていく小松市長の役目だと思いますし、我々もこういう声が上がりますよと伝えるのもこの壇上の場だと思っていますので、ぜひ質問には的確、簡潔に答弁いただければと思います。

1つ目に周辺部対策。2つ目、観光について。3つ目、ふるさと納税についてであります。

この画像はジラカンスザクラといって、若木町の川内のジラカンスザクラだそうです。これはiPhoneで撮ったんですけども、結構いい出来だと思っんですけども、今度フォトコンテストがありますので、ぜひ皆さん行って、いい作品を撮っていただければと思います。

私が最近思うのはですね、鉄は熱いうちに打てと。いろんな面に鑑みて、市長がここで何回か言われた、今、宝島の全国3位ですとか、ああいう声とかですね、いろんな部分で鉄は熱いうちに打たなきゃいけないなということで思っています。先ほど松尾陽輔議員さんも、ウェルカムハウスで今がチャンスじゃないかという声がありました。それもやっぱり鉄は熱いうちに打てだと思っんですよ。

そういう中で先日、会派の古川盛義議員さん、山崎鉄好議員さんと東京で行われる——有楽町ですね。有楽町で市役所の担当課の人と会ってきました。東京の有楽町の移住センター。ここで移住相談が武雄市もブースを出してやりました。これは手前から、佐賀県は佐賀市、

多久市、武雄市、江北町が参加していました。

こういう中で、今わかると思うんですけども、佐賀市が座ってらっしゃらないですね。隣の多久市さんも座ってらっしゃらないですね。武雄市、座ってらっしゃいます。これ、わざと狙ったわけじゃないんですよ。わざと狙ったわけじゃないです。我々12時半からスタートということで、12時半ちょうどに行ったら、もう12時半ちょうどにいらっしゃってました。

そういう中で山崎議員さん……（発言する者あり）いえいえ。鉄は熱いうちに打てですから。山崎鉄好議員さん、こうやってですね——そのときの状況言います。次から次へと武雄市にやってきていらっしゃいました。ほかのところがあいていても。ほかのところはラッキーだったのは、武雄市が混んでいるからよそこに聞きに行かれたと。長崎県も右側にあるんですね。佐世保市とか大村市さんとか、いろいろいっぱい来られている中、こうやって行ったらいっぱい来られた。

今、ちょうど職員さんが年度末ということで1人だったんですけども、1人で対応もう無理だったんで、山崎議員さんと古川議員さんがメインで対応していただいて、私も何組か対応させていただいたんですけども、我々はちょっと飛行機の都合で途中2時間ばかりしかいかなかったんで、質問の中に入れてるんですけども、この相談の成果というか、状況はどうだったのか。

それともう一つ、私は時間がなくて行けなかったんですけども、福岡で同じように武雄市の移住相談の部分でブースを出されたと。その2つの成果はどうだったのか。この2つをちょっと先にお伺いしたいと思います。

ここは若木のウェルカムハウスなんですけども、先ほどこれはもう松尾陽輔議員さんのときに答弁いただいたんで、これはもう割愛いたします。

この東京の状況、そして福岡での状況はどうだったのか。本当に私が言ったように鉄は熱いうちに打てなのか。これをまずお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

2月28日と3月5日ということで、2月28日は博多大丸のエルガーラホールという所で、西日本新聞の移住・定住フェア2016ということでイベントが開催をされて、九州、山口から15の自治体が出展をいたしております。来場者については354名、それから武雄市ブースへの来場者が35名と、1割を超える皆さんが来ていただきました。来ていただいて、うち相談を受けたのが15名ということで、この皆さん方は30分から1時間お話を聞いていただいたということでございます。

それから3月5日、先ほど御紹介ありましたように、東京有楽町の東京ふるさと回帰支援センターで行われました佐賀、長崎県の合同就職移住相談会というイベントに、佐賀、長崎

から10の自治体が出展をいたしました。来場者としては49名、そのうち武雄市ブースにお立ち寄りいただいたのが15名ということで、うち3割が立ち寄っていただいたと。その中でも14名がお話をいただいて、30分以上お話をいただいたということでございます。

特に3月5日については、先ほど御紹介ありましたように、古川議員、山崎議員、牟田議員さんが会派視察中に立ち寄られて、あわせて移住相談にもお手伝いをいただいて、大変感謝をいたしております。

状況といたしましては、以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

鉄は熱いうちに打てです。やっぱり今、私、本当肌で感じたんですけども、隣で職員さんがこうやられたときにここ座られるんですよ。山崎議員さん、古川議員さんが対応している。私も今度、武雄市ブースで待ってる方、立っている方と話してる。さらにそれでも足らずに、武雄市って行って案内が来るんですね。そしたら、そういう人たちはもう山崎さん、古川さんも対応してる、私も対応してる、職員さんも対応してるから、ちょっとよそで待ってくださいといって、江北町のところで話して、江北町で盛り上がっているんですね。鉄はやっぱり熱いうちに打てですよ。

本当にこうやって盛り上がっているときに、武雄市が宝島で3位、この次は1位を目指されると思うんですけども、こういうときにぜひこういうふうな政策、先ほど松尾陽輔議員さんがウェルカムハウスの2弾、3弾ないかっておっしゃいました。確かにこの次、橘、東西川登、ほかがあります。それはそれで実行していただきたいと思います。

やっぱり、繰り返しますけども、機を逃したらいけないんじゃないかというふうに本当思います。向こうが言ってこられる分で、もう本気なんですよ。武雄に移住したい。この方は東京在住というか、東京の方です。東京の方から北方とか、若木とか、武内という言葉が出るんですね。調べられて、もう本気で移住しようということで来られてる。ほかのところもいらっしゃいました。ぜひ機は逃しちゃいけないと思います。

以前、住宅整備計画というのがあって、私もずっと以前からウェルカムハウスみたいに周辺部に住宅もしくは分譲をお願いしますよと言って、そのときの執行部の答弁はどうだったかっていうと、執行部の答弁は武雄市内のアパート、市営住宅の人たちにアンケートをとりました。でも、周辺部には行きたくないっていう、アンケートで需要はありませんという答弁だったんですね。ところが、それは多分市内だったからだと思うんですね。市外のほうとかに向けたら需要はいっぱいあると思います。

これも何度も例を出してます。多久市のメープルタウン、住宅促進の部分。そこのところも後で聞くんですけども、大きな成果を上げていると聞いています。ぜひこれからこういう

ふうな周辺部——これで解決するとは思いません、人口問題とか何とかが。でも、その大きな一翼を担うと思います。

例えば、若木町でも山田さんとか、何とかふやそうという努力をして、自分でアパートしたり何とかやっていらっしやると思います。それがさっき壇上で言った応援っていう部分だと思います。

そういう中で、これからちょっと御提案でどうかなっていうことなんですけども、ウェルカムハウスはこの後、東西川登、橘、そういうふうな順番がありますので。

先ほど来、これも松尾議員さんやったですかね、住宅空き家調査をしていると。空き家調査をされていて、結構あった。その中で、危険家屋っていうのがいっぱいあったはずです。危険家屋。危険家屋は今までは、例えば本人、そこの所有者にお願いしていくっていうことであっていたんですけども、危険家屋の土地を寄附して、地域に寄附したり、市に寄附したりすると、その解体費が出るというのがありました。

そういう中で今度、地方創生でそういうふうな予算が出て調べたなら、いっぱい周辺部もそういうふうな危険家屋があると思います。危険家屋を倒して、更地にして、そこを不動産というか、そこを分譲——まあ上物はウェルカムハウスで今度順番がありますんで。そこを例えば不動産バンクみたいな感じで持つって、そうやって来たい人にここにありますよというので、できれば格安で提供するとか、そういうふうなことをやっていただきたいし、メープルタウンっていうのを聞くといいましたけども、その手前で分譲地というのも大きな力を発揮しています。

以前、ここで私が質問したときには、多久市は約 200 世帯近くが——200 ぐらいだったかな——分譲して、その半分ぐらいはよそから来た人と聞いています。先日も、北方に移住しようという方が多久のほうに、取られちゃったっていったらいかんですね、多久のほうにもう行っちゃったんですね。やっぱりそういうふうな、不動産という部分もこれからの部分だと思います。

先ほど答弁で、ウェルカムハウスは順番があると思います。ただ不動産バンク、不動産の住宅分譲に関しては若木、武内云々に限らず、例えば北方町に分譲地をつくるとか、中心部に近い所でも分譲地という形ですればよそから入ってくると思います。そして、さっき言った危険家屋を倒した後に、そこの地を不動産バンクでよそから来る人たちに情報提供して、格安で提供して、家を建てていただく。そのかわり、武雄市の大工さんにしてくださいよとか、そういうふうなことができると思いますけども、質問は 2 点。今言った提案と、もう一つは多久の分譲のメープルタウン及び雇用定住促進の部分はどのような成果を上げているか。この 2 点をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

まず一点ですが、今、御承知のとおり空き家調査を行っております。前回の430が恐らく相当な数にのぼる空き家の数が上がってくると思うし、危険家屋についても相当数の数が上がってくるかと思えます。そういった中でそこを指導、勧告をした上で解体をするといったときには空き地が当然出てきますので、そういったのも移住の候補地の対象になろうかとは思っています。

そういったことで、若木町については、ウェルカムハウスをつくる際に候補地として町内を見渡した中で、そういったところがありませんかと。もう既に解けているところが随分あるわけですね。ですから、そういったものをリスト化して、こういう宅地がありますよというのはいただいておりますので、若木町について言えば、そういった物件についても空き家バンクはありますけどもそれに連動して、空き地バンクじゃないですが、そういった形の……〔20番「不動産バンクですか」〕御紹介ができればということで考えたいというふうに思っています。

それともう一つ、多久市の事例でございますが、多久市については大規模な住宅開発を行っております、そこにはかなりの区画数を準備されておまして、1つは土地開発公社が147区画、これは平成5年から6年に用地取得をして、その後9年から分譲されているわけですが、これについてはすべて分譲が終わっているという状況です。

それから第2弾として、定住促進住宅団地ということで28区画を分譲されて、これはもう全体で1万1,000平米ぐらいありますけども、これを27年から分譲をされております。それについて、現在28区画のうち18区画が売れておまして、あと残り10区画が残っているという状況でございます。

ここについては、分譲価格が6万6,000円から7万2,000円と。平米ですね、平米の単価がかなり高こうございます。〔20番「これ、坪じゃなかと」〕すみません。坪当たり、ごめんなさい。失礼しました。坪当たり6万6,000円から7万2,000円の価格でございます。

そういった分譲という形の手法についても、多久では効果を上げているようなところもございます。ですから、ウェルカムハウスを第1弾として私たちは取り組んでおりますけども、この効果を検証した上で、いろんな前向きな検討をさせていただければというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

危険空き家を除去すると。これは私は大事だと思っておりますし、私個人としては早く進めるべきだと思っております。

法的ないろいろ規制もありますので、ただ一方でなかなかうまくいかないというのが全国

の現状だと。そういうときに、やはり土地ということになると、地元の皆さんの御協力が必要になってくると思います。分譲というのは、私は一つの手だというふうに思っています。庁内で早速議論をしたい。そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20 番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

鉄は熱いうちに打てですよ。

ちなみに、分譲とかで一番早く売れる所はどういう所か。一番早いのはですね、工業団地のそばなんですね。近くの便がいい所。そういう所は早いらしいです。

まちの中の条件のよかところはよかばってんが、何て言うんですか、値段もその分高いですから、そういうふうな形でぜひ前向きにやっていただきたいと思います。

そういう中で、これはさっき質問やめた分です。これはメープルタウンのこういう区画が、さっきありました6割ぐらいはよそから、市外から来ているらしいです。

そして、先日IT委員会で石破大臣のところを訪ねました。石破大臣とちょっと話して一番印象に残ったのが、応援するよと。さっき出したこと、応援するよと。ただし、今までの既存の制度とか何とかじゃなくて、自分で考えて新しい制度をつくったところは私は応援しますということで、逆に我々はお願いをしに行つてレクチャーを受けたみたいないな感じで、今まで護送船団方式で、これをすればよそもする、よそもすればこっちもするみたいないな形なんです。そうじゃなくて独自の、例えばさっき言った住宅政策もそうですよね。あんまり近隣の住宅していなかった。空き家バンク、不動産バンクというものもなかった。そういうので、新しい本当に自分たちがやりたかったら応援しますということで、石破大臣からしっかりレクチャーを受けてまいりました。IT委員会でちょっと違ったんですけども。

次です。次は校区制度。周辺部対策の中の校区制度に移りたいと思います。

校区制度を何で取り上げたかっていうと、2012年、2013年だったかな、私が質問したときに、当時の樋渡市長が校区制度を見直しますと。例えば、一つはスポーツで移りたいという人たち。例えば、この子は野球好きやもんねと。ソフトボール好きやもんねと。でも、地元に進むところはなかもんねと。そいけん、どこどこにやいたかとか、そういうスポーツの校区制度を撤廃するのも一つ。

そして逆に、中心部から周辺部にスルーで移るのも制度をいじれますという答弁を受けました。逆は駄目だっていうことも言われました。周辺部からまちの中に行くのは駄目で、まちから周辺部のほうに行きたいという希望があれば行かせるっていう制度に変えますっていうことになりました。

じゃあ2013年以降、教育委員会は校区制度をどのようにいじられたのか。もう3年たっております。いろんなことで武内町、例えば若木町、今度は東川登、花まる学習塾であつて、

行きたいという人がいるかもしれない。その他の——きょうは松尾議員さんの名前いっぱい出しますね。松尾陽輔議員さんが言われたスーパー食育に行きたいという人いるかもしれない。

だから、そういう中で校区制度をいじるということを3年前にお約束されたんですけども、まあ市長は変わりました。でも、当時の最高責任者が言われた部分です。この辺はいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

確かに前市長の折に、校区制度について言及がありました。3つ申し上げたいと思います。

1つは、いじめとか不登校については文科省からの通知等もありまして、現在でもかなり柔軟にしております。これは、そのときの市長答弁においても、いじめ等も含んだ発言もございました。ですから、それが公になる部分が、子どもへの影響を考えて公にしてない部分もあるんですが、段階的な一つとしては、そういうのは進めているということです。

それからもう一つは、お話にありましたようにどの学校も一生懸命頑張っ、特色ある学校づくりをしてもらって、特にこの周辺部におきましても、各学校いろんな試みをしてもらっております。その結果、実際に市外から、県外から移住の方がおられるという状況があります。そういう状況の中で市内からの移住、一方、中心部からの移住というのが効果的かということとは議論をしているところでございます。

それから3つ目としましては、先ほどスポーツの話がありましたが、周辺部の学校がかえって部活の種類っていうのは少ないわけですね。そういう中で、それを認めた形でどうなるかというような点も協議しているところでございます。以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

どの議員さん、上田議員さんやったかね。検討しますはしてないことと一緒にということと言われたんですけども、この校区制度も制度自体、条例とかそういうのは全くいじってないということですね。解釈だけで。いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先ほど段階的という言葉を行いましたけれども、こういう形で移住できますよと、転校できますよというのはもっと公にすべきだったかなという点はございます。先ほどのいじめとか、不登校であったりですね。以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

20 番 牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

あれからもう3年たって、これは前回答弁のときも、2学期制度もそのまま行ったというのも何とかしたいっていうのと同じ状況ですよ。

いつもだったら、もっとあれなんですけども、制度は3年間いじってないじゃないかとか、駄目じゃないかというふうな形でいつもは言っていたんですけども、ウェルカムハウスもできました。教育も頑張ってるというのが本当に身に染みてわかっているんで、ぜひいじめとか何とかに限らず、行きたいという希望があれば、さっき言った、線を引いて逆は駄目だよっていうのがあると思うんですけども、ぜひ周辺部への人口分散、均一なあれの部分で実行していただきたいと思います。

ひょっとすると多いかもしれない。それによって移住してこられるかもしれない。子どもたちもそれが幸せだったかもしれない。親もよかったかもしれない。でも、この校区制度っていうのが邪魔して行けないもんだと思ってる方がいっぱいいらっしゃるんで、こうやって行けるんですよ、逆は駄目ですけども行けるんですよというのをぜひPRして実行できるようにお願いいたします。よろしくをお願いします。

校区制度は以上で終わりたいと思います。

続きまして、これは周辺部の道路政策で、2つだけちょっと腑に落ちるところ、私9月議会で質問したところですね。

これは若木工業団地です。工業団地で、ここから出るときのこの道路、これは私は7年前から言ってるんですね。7年前から工業団地、国道498。こっちが高橋、こっちが伊万里。ここが出る所が非常に危ないと。川上の交差点からこのセブンイレブンまでは横断歩道もない。ですから、ぜひここで、信号機はなかなか難しいかもしれませんが、ぜひまずは横断歩道からでもということをや7年前から言っているわけですね。

9月議会であんまりなかったんで、また9月議会で再度質問したときに、質問したときの答弁はちょっとひっくり返るごとあったばってんが、交通量がそれほどないんで、なかなか難しいという返事をいただきましたということで答弁があったんですね。

1万5,000台から、1日2万台通ってるわけですね。工業団地っていう、県道とかここ危ないわけですよ。こんな感じで、ちょっとすみません。写した本人がぼけてるんで、ぼけました、これ。ごめんなさい。こういう形で弓なりになって見えないんですね。工業団地の大きなトラック、従業員さん来るのに危ないし、横断歩道もない。何とかしてくださいって言ったとき、さっき言ったように、交通量が少ないのでなかなか難しいという返事をいただきました。

ちょっと待ってくださいと。僕そのとき時間なかったんで突っ込めなかったんですね。ち

よっと待ってくださいって。これ7年前から言ってるんですよって。7年前から同じ話だったら私もわかるけど、ここで私が質問したときに聞いているんじゃないですか、そんなときだけ。質問に出したときだけ、ここがんです、つくってもらえんですかって、いやそいはあれですよって。7年前から言っただけで、都合4回目ですかね、私ここ言うの。

また同じ答弁かもしれないんですけども、ぜひ——本当は信号欲しいですよ。信号欲しいんですけども、まずは横断歩道から。そしたら、注意を喚起できます。ひし形もできますし。ぜひ強く、毎年、毎回、鉄は熱いうちに打てですね。ぜひ、これ鉄冷めちゃいました、すみません。もう冷めているところです。もう何とかしていただきたいと思います。7年前からやってます。これをぜひ毎年、いつも毎回お願いしたいと思います。

次に、これは武雄北中側、若木町側、餅ヶ峠ってというのがあります。これも7年前から——これは先、8年前に質問したのかな。言ったんですけど、そのときの答弁は平成27年に着工いたしますという答弁だったんですね。

それは何でかっていうと、ここ498ができます。残土が持っていきます。だから、これで27年度にやりますといったときに、27年度やってないからどうしてですかって、なかなか難しいんですよってという言葉で、この前もタイムスケジュールも言っていただけなかったんですね。こんな感じのところですね。ここが子どもたちが通っているところです。

この2つ、一体どうなっているのか。どうしようというふうに市は動こうと思っているのか。お伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

武雄の工業団地入口の三差路への信号機と横断歩道ということでございます。

これにつきましては、議員さんおっしゃられたように、もう再三要望をされて、地元のほうからも要望をいただいて、毎年武雄警察署のほうに要望しているところでございます。

いかんせん9月議会で申し上げました中身は変わっておらず、交通量は大きな変化がないという回答で、現在ここに設置は考えていないという警察の見解でございます。

しかしながら今後、国道498号線と、なおかつ伊万里多久線の女山トンネルがまもなく開通いたします。こうした中で、交通量は大幅に増加すると我々も考えておりますし、地元の要望に応えるべく、信号機並びに横断歩道と、まあ信号機はないにしても横断歩道をとということでもございますので、そこらへんも含めながら武雄警察署に引き続き要望していきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

山下まちづくり部長

○山下まちづくり部長〔登壇〕

おはようございます。市道川古武内線の餅ヶ峠の改良工事でございますけども、調査概略設計を実施いたします。通学路でもございますので、整備につきましては地元と十分協議をしていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20 番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

よろしく願いいたします。ぜひですね、餅ヶ峠は市道ですかね、市道ですから予算のほうでぜひお願いしたいと思います。

次はイノシシ。これはさっき松尾議員さんがやっちゃったんでやめようかなと思ったら、画像もう入れちゃってるんですね。同じ若木で出たイノシシです。

イノシシ、ワイヤーメッシュっていうのが最終手段だと思っていました。イノシシの質問、私はもう昔からやっていて、いろいろ調べました。イノシシ自体、本当は一番効くのは、前に言ったのを覚えていらっしゃるかもしれませんけども、オオカミの尿をまくというのが一番効くらしいですね。オオカミの尿ってのは、オオカミが天敵ですから絶対に近寄らないと。それは、なかなかもう日本はオオカミいないので難しいと。

じゃあその次に言ったのが、避妊薬を入れた餌をまいて防ぐ手段がとれないもんかって言ったけど、そのとき答弁は「研究します」だったんですね。答弁は、議事録読んだら。議事録読んだら答弁は「研究します」なんですよ。だから、その後研究してどうなったのか。

できんのかもしれません。でもやっぱり、蛇口も水ばジャーって出しよってですね、下で幾らすくうても、もとば閉めんぎなかなか駆逐は難しいと思う。駆逐っていう言葉いかなかもしれんけど、難しいと思います。

避妊薬、毒は駄目らしいんですけども、せめて避妊薬。例えば、これ武雄だけでやったら、そのイノシシを武雄の人が食べたらどうするんだというのがあるから、広域圏で取り上げて、イノシシは県境、市境ないですからね。この辺はそうですよとってやるとか、そういうのができないのか。

ワイヤーメッシュは最後の手段だと思ってたんですけど、やっぱり破るのは破ったり、下からもぐったり、中入ったら今度は出れないで荒らしちゃうとか、本当に周辺部困っています。本当は避妊薬をまぜたやつをできたらいいんですけどね。それはどうなのか。

もういっちょ言うたのが、オオカミが駄目やけど、ライオンの尿とか動物園からもろうてまいたらどがんやろかとか、これは冗談のようなことを言いよったとばってんですね。やっぱり一番効くのがオオカミの尿らしいです。ですから、それができないんで避妊薬。そういうでしたら「研究します」だったんで、その後どうなったのか。どういうふうに取り組むのですか。これをお伺いしたいと思います。

でもね、これ笑い話のようなんですけど、周辺部は本当に出るんですよ。それこそ 14 年

前、蒲地議員さんというのがいらっしゃったんですけど、蒲地議員さんがゆめタウンでイノシシ見たと。そういう話も出てくるぐらいですね。買い物はしてないやろうばってんが、やっぱりイノシシを本気で何とかしていただきたいんで、こういう提案でやってます。

それと、これもさっき松尾議員さんも言われたんですけども、入れちゃってたんで仕方ないです。すみません。

これはうちの家です。2階をね、こうやって2匹歩いてたんですよ。ここをぐるっと回って、こっちに来るんですね。ここまで来ました。あいた一っと思ひよったけど、うち犬こうとうけんが、ここからもう逃げちゃったんですね。うちの飼い犬をけしかけて、やっぱ犬猿の仲というぐらいやけんが、行っちゃいました。

イノシシも大変ですけども、猿は聞いた話じゃ、多久では群れになってるって聞きました。それがこっちとか来たら、ほんとイノシシどころじゃない被害だと思います。何とか寄せつけない方策をとらなきゃいけない。

これ、うちの近くの知り合い。うちのすぐそばです。車に女性乗ってらっしゃいます。猿が車の上にドーンと。子どもが乗ってたんで、子どもを急遽前に抱き寄せて、電話が来るんですね。ちょっと、猿が車から動かないと。こんな状態で。よう写真撮る暇のあったなど。写メで送ってきたんですよ、私のところに。

もう一件、同じようなところで屋根から動かない。小さい子どもがいる。そんなときどうしたかという、私たまたま爆竹を以前もらってたんで、爆竹でババババってやったら、ちゃっと行っちゃいましたけど、何とかこの対策も考えてほしい。

以上、2点お伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

お答えいたします。イノシシにつきましては、平成20年12月の議会で御質問いただいたと思いますが、実際にまき餌に避妊薬をまぜるという形になりますと、環境省の許可が必要のようでございます。

そのほか、杵藤保健福祉事務所のほうにもお尋ねをいたしましたところ、食用に使うものにつきましては、捕獲をして加工する際に薬品の残留成分の調査が必要ということでお聞きしております。

また、イノシシ以外の不特定な多数の動物に避妊薬を摂取することになるので、生態系への影響もちょっと懸念されるということでございまして、となりますと正直申し上げまして慎重にならざるを得ないというような状況でございます。

ただ、議員おっしゃいますように蛇口を閉める効果ということでございますので、貴重な御意見いただいています。農水省が出しました、被害防止における全国の取り組み事例もご

ざいますので、よりよい方法を研究させていただきたいというふうに思っております。

それから猿でございますが、猿が出没しまして非常に御迷惑をおかけしているところがございますが、猿については御連絡をいただいてすぐ対応してるところでございますけど、動きが早いということでございまして、捕獲が難しい状況はもう御承知のとおりでございます。

山に追い払うことが一番でございますけども、国のほうは行政区域を越えて活動する野生鳥獣に対しては、複数の市町村が連携して広域的に対策をするということが効果的であるというふうにしております。したがって、まずは県に要望いたしまして広域で取り組むように協力を促したいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

20 番 牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

申年って言ってましたが、あんまり関係なかごた気もすつとですけども。

イノシシのその残留成分、環境省の許可とりましょう。残留成分の調査しましょう。それぐらいやらないと減らないです。もう大変だろうけど。環境省の許可もとって、食肉は残留農薬も調査する。それぐらいやって、避妊薬でも、本当は毒がいいのかもしれませんが、避妊薬でもしてやらないと減らないと思います。ぜひお願いしたいと思いますし、お猿さんのほうは、去る者は追わず、もう一生懸命に猿に関しては県と調査して、群れになる前に何とか対処していただきたいと思います。

では次、猿で聞いたんですけども、猿が——これ鷹匠の石橋さんの鷹らしいです。これが効くらしいんですよ。本人さんに確認したんですけども、猿は一つの天敵なんでしょうね。やっぱり来たら、もう来なくなる確立がものすごく高いと。ぜひ鷹匠さんと相談して、市と契約でもしてパトロールの中に入れて、そういうふうな猿が出た地区はそこの上をぐるぐる回らせるとか、効くらしいです。

県と相談してやるっていうのも一つの方策で、広域圏で石橋さんと相談して予算つけてやるとか、そういうことも一つの方策だと思いますので、ぜひ研究をしていただきたいと思います。

では次、周辺部対策の中のお結び課。周辺部対策、人口対策がメインで、道路政策でも言いましたけども、人口をふやすというか、市長がおっしゃっている子育て政策。市長の1丁目1番地、子育て政策は私の1丁目1番地とおっしゃっています。お結び課は1丁目1番地のずっと手前の0番地0丁目ぐらい。これがないと、結ばれないと子どもができないですよ。だから、本当に市長がおっしゃっている子育てが1丁目1番地の原点のところだと思うんですよ。これがないとふえないですから。ぜひお結び課さん、頑張ってもらいたいと思います。

ちょっとお伺いですが、何年間で何組の成果があったか。これはすぐわかると思うん

で、まずはそれをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

平成22年から取り組み始めておりまして、会員同士の結婚に至った組が11組、22人。それから、会員の方と会員外の方の婚姻が75人という状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

よくわからなかった。会員同士の結婚が11組。会員と会員以外の人との結婚が75組。その会員と会員以外の人との結婚が75組ということは、それはこのお結び課さんの力でなったということですか。そこら辺を区別しないとわからないので。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

説明不足で申しわけございません。会員同士の婚姻22名についてはお結び課の事業でございまして、会員と会員外につきましてはお結び課が直接かかわっておりません。申しわけございません。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

何でその会員外の人との75というのを出すのか、よくわからない。実績は5年間で11組ですかね。ということですね。

予算書見たら年間約700万、人件費とか何とかかかっているみたいですが、お結び課さん、本当に大切な課だと思います。さっき言った市長の子育て政策の原点ですから、ここがないとふえないところですから。ぜひお結び課さんに頑張ってもらってやっていただきたいんですけども、例えばお結び課さんと今お住もう課さんってありますよね。お住もう課。こういうのが一つセットになって、移住してくるというのと同じことですから。例えば、ひよっとするとスタッフが足りないのかもしれない。内容は私はわからない。

これは前から言っているんですけども、いろんなイベントをしたらどうですかと。例えばよそがいっぱいイベントをされていますよ。ところが武雄はなかなかやらない。やってない。やっても、何か1個か2個ポンポンと。よそは、私40代の独身の方とか50代の独身の方とかに聞くんですけど、伊万里のイベントとか鹿島のイベントいつもあって、両方とも登録してるんで両方とも行ってるって言うんですね。

武雄の動きがなかなか見えない。頑張ってるのに見えないっていうのは本当に大変だと思うんで、ぜひ、例えばお結び課さんとセットでできないもんかって、そうしたらもっと幅が広がると思うんですよ。いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

会員同士がまず結婚をすると。これが一番の理想だと。会員と会員外についても、最初結婚をする意欲がなかった方が結婚をするようになったという点では、これも今回登録されたのがやっぱりきっかけになっていると思っています。

お結び課とお住もう課の連携。私もこれは非常に0丁目0番地だと思いますので、となると番地なくなっちゃうんですけども、番地はありますんで大事だというふうに思っています。

私も数字とりまして、一般的な結婚相談所、成婚率は10%だそうです。先ほどの会員、会員外まで入れると、成婚率、お結び課は16%ということで私は把握しております。イベントはきっかけになると思いますが、ぜひそこのお見合いの質を、そこが結婚の決め手だと思っていますので、そこを充実していきたい。とにかくお結び課、これは大事ですので、力を入れていきたい。そのように考えております。〔20番「お住もう課との、お住もう課さんとの連携は。連携」お住もう課との連携は図ってまいります。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

0番地、いつも何かまめらんですよね。0番地0丁目。これがないとスタートしないですから、ぜひ頑張っていたきたいと思います。

では次、観光のほうに移りたいと思います。

これは前から言っているんですけども、有田焼400年祭、これに乗かって何かできないかと。例えば伊万里市は、有田の観光協会と伊万里で組んで、旅行会社と組んで企画したり、有田と嬉野が共同企画してそういうふうなイベントとか何かを企画したり。武雄っていうのはあんまり聞かないんですね。それは成功した、しないっていうのはわからないですけど、今後、ことしっていうか、もう始まりますので、どういうふうな計画をされているのか。

それともう一つ、ちょっと拡大したらわからなくなったんですけども、武雄のふるさとクーポンですね。ふるさとクーポン、来た方にちょっと安くできるっていうやつ。これ、大好評でしたよね。大好評だったんですけど、これはどうなったのか。

9月議会にやりましたよね、こういうふうなことしていただきたいと。じゃあ次はやりたいたいと思いついて言っていたら、企画自体が立ち消えになっているみたいで、地方創生とか

補助事業っていうのがあるかもしれないんですけども、ぜひ以上2点どうなっているのか、お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

お答えいたします。まず、有田焼きは400周年でございますが、現在計画中でございますのが県、それから有田町、それから伊万里市、嬉野市のほうと連携をいたしまして、焼き物の里をめぐるレジャークーポンを発行したいというふうに計画中でございます。

クーポンのメニューといたしましては、ろくろ、それから絵付け体験、それから立ち寄り湯の入浴などの利用を仕組みとして挙げたいというふうに思っております。時期的には閑散期の7月に実施できればというふうな計画でございます。

それから、武雄独自の取り組みといたしましては、武雄焼きのさらなるブランド化を目指しまして、教育委員会あるいは観光協会と連携をいたしまして、古武雄展の開催でありますとか、それから焼き物シンポジウム、現代陶芸展等を開催する予定でございまして、これは時期的には人間国宝展がございまして秋ごろに実施をできればというふうな計画でございます。

それから、もう一つのふるさと旅行券の件でございますが、確かに大変な、特に夏の閑散期の影響としては大きかったというふうに御感想をいただいております。

実は今度実証するときについては、議員おっしゃったように、立ち寄り湯の分についてもその面を考慮したいというような御答弁を申し上げたことはありますが、実際、今度の新年度におきます国の交付金制度では同様の制度が組み立てられておりませんで、観光課といたしましても財源の確保がなくて、市の単独予算ではなかなか継続が難しかったという状況でございます。

ただ、今回の実施に当たってたくさんの成果がございまして、ワンランク上の宿泊施設を御利用になった方もたくさんございまして、そういった意味では、今後につきましては個店等の取り組み、特に魅力をアップするような取り組みについても支援をしていきたいとも考えておりますし、議員が常日頃からおっしゃってます、滞在時間を伸ばすための店舗を周遊されるような仕組みも、今年度の取り組みの結果を十分検証いたしまして、店舗の方々や関係団体とも協議をしながら、今後の展開の可能性を探っていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

市長が年度当初出したのは「組む」ということでした。ぜひいろんなところと組んでやっ

ていただきたいと思います。

これが有田と組むのかもしれない、県と組むかもしれない。ひょっとすると武雄と嬉野が組んで商品を開発するのかもしれない。ぜひそういうような組むという面もあって何とかやっていただきたいと思います。これはさっきのですね。

これはもう風穴です。すみません。大楠ですね、これライトアップです。これはジラカンズザクラ。こういうふうに、例えばさっき言った焼き物は焼き物でやるのもいいですけども、夏場に風穴のほうにセットで組むツアーとかですよ、いろんな面があると思うんですけども、あともう一つは応援という言葉さっき使いました。いろんな面で地域はこうやって頑張っています。ぜひこういうふうないろんな取り組みを応援していただきたいんですけども、観光課、そういう面に関して応援をお願いしたいんですけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

先日も若木におかれましては、大楠のライトアップも町中で取り組んでいただきまして賑わいを持たしていただいたところでございます。

何よりも観光客のおもてなしとしましては、地元の皆さん方の御協力、おもてなしが一番でございますので、そういった地元の皆さん方が協力をして観光資源を磨いていくという活動につきましては、私どもも積極的に協力をしていきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

20 番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ありがとうございます。ぜひお願いしたいと思います。

次ですけども、これは秋田の竿燈まつり。これは上田議員さんが秋田の話をされました。これは、武雄に1回来たんですね。見られた方も多と思うんですけども、そういう中で、この竿燈まつりのとき、石井前市長のときの平成1桁の早い時期だったと思うんですけど、そのときに市長答弁で2万人とおっしゃいましたけど、5万人らしいですね。5万人来られていたそうです。

今の武雄市の情報発信力がないときで5万人ですよ。今の武雄市でこの情報発信力、知名度で、これもし——本当は市制10周年に合わせたほうが一番よかったけど、間に合わなかったら来年でもいいんですけども、こういうのを引っ張って目玉にすると。

過去1回実績があるので、それと市長は上田議員の答弁で、これから行くと。ぜひこういうものの誘致に向けて、実行していただきたい。これは市長という面、そして観光協会会長という面、そういう面でもやっていただきたいし、もう一つはやっぱ、教育の面になるかもしれません。子どもたちとかにこういう文化があるんだということで、ぜひこういうものの

誘致に向けて動いていただきたい。

余談かもしれませんが、私先日知ったんですけども、戊辰戦争に武雄藩から行かれたと。そういう中で、私の地元若木からも十数人それに従軍して行かれてたってことを初めて聞いて、ああ御縁が深いんだなと。知れば知るほどいろんな面で御縁が深くなる。そういう御縁が深いところでのものすごい名物、しかも一回実績がある。

ぜひそういう部分で今度行かれたとき、ちらっとそういう話をして、合意できるかどうかはわかりませんが、やっていただきたいけども、市長いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

東北三大祭りの一つの竿燈まつり。当時平成5年、5万人ということで職員にも聞きますと、やはり当時はかなり盛り上がったということで、みんな思い出に感じているようです。今度行ったときにぜひ秋田市長と会って、直接誘致の相談をしてきます。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ありがとうございます。そういう部分でぜひ頑張っていたきたいと思います。

これはほんとニュースになると思いますよ。情報発信力が実際なかった当時でさえそんなに来てたと。今はもうどのくらいくっつとでしょうね。びっくりするくらい来ると思います。話題にもなると思います。これでフォトコンテストなんてした日には、バズーカ砲を持ったみたいな人たちがいっぱい来ると思います。ぜひ実行に向けて御努力をお願いしたいと思います。

では次、最後の項目、ふるさと納税。この画像、ふるさとっぽいでしょ。ふるさと納税。

これでいつも思うのが、宮本議員さんが奇しくもここで言われました。私もよそから買いようですもんですね。私、議員やってるからそういうのあんまりやっちゃいけないんだと思っていたら、やっぱりやってらっしゃるんですね。

思ったのが、武雄はこれだけ来てますってということばかり聞きます。出て行きようもんもあるとですね。例えば5,000万ふるさと納税がありました。でも、武雄から1億ふるさと納税外に出ていたら、どうなんでしょうか。実際、細かい交付税計算すると複雑であれなんですけど、実際ちょっと単純な話で、5,000万武雄に入ってきてます、年間10億円超えました。おおすごいね。でも、ふるさと納税で11億外に出てたらどうなるんですか。そこのところもぜひ鑑みて、商品開発を行っていただきたい。

それだけの金額、嬉野が1カ月で何億売った、この前ふるさと納税の部分が出たときに、幾ら頑張ると。そういう中で今の体制で本当に大丈夫なのか。今、里山係、企画課、本当に

大丈夫なのか。本来の業務ができていないんじゃないか。

例えば里山係も、商品開発に本当は動きたいけど、こういうふうな日々の業務でそれができない。本当にふるさと納税というのはいい制度だと思います。それは地域が活性するから、商品売れるから、実になるから、福祉の向上じゃなくって所得の向上。目に見える部分でなるから。ぜひ体制を強化し、外に出ていかないようにというか、それ以上の売上をするような体制強化をお願いしたいと思いますけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

鉄は熱いうちに打てということですので、体制の強化を図りたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20 番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

これがさっきのやつですね。武雄市から他市への。これを絶対に武雄から出る分よりも入ってくる分を多く、頑張って体制を整えていただきたいと思います。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、20 番牟田議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、5 分程度休憩いたします。

| | | |
|---|---|--------|
| 休 | 憩 | 11時6分 |
| 再 | 開 | 11時11分 |

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、7 番池田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。7 番池田議員

○7 番（池田大生君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんおはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、7 番池田大生の一般質問を始めさせていただきます。

今回、市政運営について、教育行政についてお尋ねをいたします。最終日で重複する部分もあると思いますが、なるべく省かせていただきますが、重なった折には御勘弁をください。よろしくお願いいたします。

3 月に入り暖かい日々が続いておりますが、春を感じさせるようになりました。非常に外に出やすくなり、ウォーキングや各種スポーツも盛んになってまいりました。我が家にコジローという家族がふえ、はや2 年がたちました。毎日の散歩が課題でありましたが、今では

家族協力のもと楽しんで行っております。

昨年の北方町の青少年育成町民会議の総会だったと思いますが、子ども見守り隊の活動のほかに、犬を飼っている方に向けて、散歩しながら声かけとか、挨拶を交わしながらの見守りを兼ねたわんわんパトロールの推奨をされました。そんな折、ことしの2月、武雄市青少年育成市民だより「雄翔」に、TAKEOわんわんパトロール隊発足という記事を目にいたしました。

ゆるやかなボランティア活動とのことですが、この取り組みについて現在の状況と今後の展開についてお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部理事

○諸岡こども教育部理事〔登壇〕

おはようございます。わんわんパトロールについての御質問でございますけれども、これにつきましては、議員がおっしゃられましたように青少年育成の市民会議、この中の育成部会というところで推進をされているという事業でございます、子どもたちの見守り活動の一つで、愛犬との散歩中に登下校中、あるいは遊んでいる子どもたち、こういう子どもたちに積極的に声をかけるなどして、無理のない範囲で地域の見守りに御協力をいただくと、こういう主旨のもとで、ことしの2月から登録を始めさせていただいたものということでございます。現在14件の登録がっております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

我が家もですね、会員登録をいたしました。北方町第1号の任命を受けたところです。

この取り組み、非常にいいことだと私は感じておりますけれども、地域におけるコミュニティにもつながるし、先ほど言われたように子どもたちの様子もうかがえます。地域の様子や状況を見ることができます。犬が苦手な人もいる中に、ペットの飼い主のマナー向上にもつながり、散歩による健康増進にもつながるかと思っておりますけれども、ほかにもありましようが、行政の少しの後押しで、一石二鳥が三鳥にもなる自主的な取り組みですが、これにあわせてですね、いろんなグッズ等も配布をされておりますけれども、グッズも消耗品ですから交換等の制度、また狂犬病の予防接種の際に呼びかけるなどしてですね、広げていただければと思います。モニターお願いします。

わんわんパトロールから見えてくるものもあります。12月議会の一般質問でお尋ねをいたしました、街の明かりについてでございます。大体、北方の旧長崎街道の通り沿いを私よく歩くわけなんですけれども、北方公民館の前を通り抜けまして、マルキョウの裏、そして中学校のほうに抜けてまいります。昼間の状況は非常に見通しがいい状況でございますけれど

も、夜、公民館で行事があるときはですね、非常に明かりがともって、歩くときも歩きやすい状況であります。何もあってないときは、このような状況で真っ暗な状態でもありません。

続きまして、同じ公民館のところなんですけれども、スポーツセンターと北方公民館の間に、相撲場に通る道がありますけれども、ここも相撲場の階段のところだけですね、外灯があって何も行事があつてないときは真っ暗な状態となっております。通り抜けまして、北方のマルキョウの裏の所ですね、ここも長崎街道でスクールゾーンにもなっております。奥に中学校がありまして、ここ、部活が終わって帰るときには暗い状況でもありません。

今現在、中学校の校門から上がった坂のところに電気をつけていただいておりますので、奥のほうはなかなか明るい状況ではありますけれども、マルキョウの裏から中学校の間、電気が何もない状態で真っ暗な状態です。運動公園の中に水銀灯が2つありますけれども、これも点灯していない状況で、これがつけばですね、マルキョウの裏から中学校の通りのところですね、もう少し明るくなると思うのですが、そのほかには外灯はありません。

こういう中ですね、12月に質問したときにタイマー等の設置が考えられるということでしたが、その後協議があつたのかをお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部理事

○諸岡こども教育部理事〔登壇〕

北方公民館での外灯の御質問でございますけれども、さきの12月議会で御質問いただいた折りには、私のほうから、今後住民の方々のお声を頂戴しながら検討してまいりたいと、こういうふうに御答弁を申し上げたところでございます。

北方公民館で、休館日においては外灯を点灯していないというところでございますので、周辺の方々からそういう早急に点灯を求めるような声がないかと、こういうことをお聞きしてきたわけでございますけれども、そういう声は聞こえてこなかったということでございます。

それから、休館日の夜に点灯させるということになりますと、タイマー式に変更する、こういったための費用等が、新たなコストが必要になるというようなことから、この外灯の関係につきましては、ぜひ地元の防犯協会等でも十分な御協議をお願いをしていただければというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

地元の方のお話を聞いたということでございますけれども、私ですね、ここを散歩をしながらいろんな方とお会いします。しかも夜の時間帯ですね、暗くなってから。私が聞くのは、

暗くて歩きにくいときもあるよねって、行事がないときは暗いよねという声を聞きます。最近中学校のほう、ついてるということを申し上げましたけれども、中学校がつくようになって、奥のほうは本当に歩きやすくなったねと、生の声を私は聞いておりますが、本当に声になかったんでしょうか。お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部理事

○諸岡こども教育部理事〔登壇〕

お答えいたします。公民館等でもそういう旨についての声を、把握しているかということをお聞きしたわけでございますけれども、先ほど申し上げましたように、そういうお声については聞こえていないということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

公民館に集まってこられる方ですね、意外と公民館の行事があつてるときに集まれる方、多いと思います。

それとですね、防犯協会等のその協議もということでしたが、北方町の北方区ですね、非常に区長さん頑張つてですね、防犯灯の設置率は非常に武雄市内でも高いほうだと思います。

この公民館の施設の周りが、行事があつてないときが一番暗いということで、お願いをしているところですけども、それとあわせてですね、この運動公園内にある水銀灯ですね、これ実は球切れなんじゃないのでしょうか、本当はつけたほうが——ここ公園です。すぐ近くに中学校もあります。下校時とかやはり明るいほうがいいと思いますけれども、今後また考えていただけないのか、再度お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

地域の安全は地域で守るということで、東川登町ではまちづくり交付金でまさに対応されていますので、ぜひそこは町でまちづくり交付金を活用するなど、ぜひ考えていただきたい、そのように思っています。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

交付金等いろいろ活用もしながら北方町もやっております。ここ公共施設です。公共施設の電気をつけることができないかというお願いでございますけれども、早々に協議をしていただきたいとお願いをいたしまして、次にまいります。

先ほど写りました中学校の下のところにですね、北方町のテニスコートがあります。テニスコートの手前に子どもたちが遊ぶ運動公園がございますけれども、今現在もテニスコートのネットが、風だったのか何だったのかわかりませんが、倒れかけた状態にあります。これについての対応はどうかされているのか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部理事

○諸岡こども教育部理事〔登壇〕

フェンスの倒壊の部分でございますけれども、これは1月だったと思いますが、突風によって傾いたということで、発見後、早速子どもたちの安全確保というのが最重要というふうな観点から、直ちに傾斜するフェンスに人が近づかないようコーンを配置し、それから中学校のほうで生徒へ注意喚起を行ったということでございます。

現在、補修工事を事業者のほうに発注しているところでございまして、今月中には修繕が完了する予定であるというふうに対応しているところではございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

このフェンスの外側にテニスコートの看板があつてですね、この状態からまたさらに、今現在倒れかかって、ここになんかかっている状態です。

これが発見されたのが1月22日です。安全対策、コーン等の設置等をしたということでございますけれども、手前のほうには子どもたちが遊ぶ運動公園があります。この状態を、そのコーンを囲んでいる状態を見たときに、これで小さな子どもたちにとって安全と言えるのだろうかということを思いましたけれども、通常の安全管理に対するものより、ロープで囲っただけの状態でございます。柵等は何もない状態で、中学生もこの状態でこの中で部活を行っております。施設全体についても、支柱はこのような状態でさびた状態になっております。下の梁のほうもむき出しになっていたりとかですね、とても安全な状態とは思えませんけれども、今月、3月には工事も完了するというところでございますけれども、安全管理についてですね、対策をもう少ししっかり行ってもらわないと、子どもたちの安全・安心のためには必要なことだと思いますけれどもいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部理事

○諸岡こども教育部理事〔登壇〕

安全管理でございますけれども、体育施設等については指定管理者である財団法人の体育協会のほうに定期的な点検等をお願いしております。その状況については逐次御報告をいただき、必要に応じて現場確認などを行っているということでございます。

議員が御指摘をされている分についても、実は私も現場を確認させていただきながら、必要な部分、緊急性を要する部分から対応していくということで、対応しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

安全対策のほうよろしくをお願いします。これ、もうすぐ2カ月になります。立ち入り禁止の看板等何も設置してありません。本当に対策を講じていただきたいと思います。

また、北方町のみならずですね、今回北方町の施設についてお尋ねをしますけれども、各施設ですね、非常に老朽化もしております。テニスコートの中の状態も、4面あるんですけども、先ほど写ってたほうは、モニターに出した分、2面フェンスで囲んで、2面をフェンスで囲ってあるほうの、きれいなほうの2面がちょっと倒れかかっております。これもう片方のコートにはですね、椅子等も設置をされていたのでしょうかけれども、腐食が進んで座れる状態にはありません。コートも草がこのような状態ですね、ぜひ改修をしていただきたいというところですけども、またサンスポーツランドの得点板、スコアボードのところも下のほうさびてむき出しになった状態で、ここも子どもたちが行き交いをするところでございます。非常に危険じゃないかなと。

サンスポーツランドのグラウンド内を見ますと、これ芝じゃありません。草が生えた状態で、グラウンドの手入れをされて、もうちょっと施設に改修というか整備に取り組んでいただきたい。野球をする人間としてはお願いしたいなというところでございますけれども。

テニスコートのみならず、施設については武雄市教育委員会ということになっております。また、野球のグラウンドでも、泥、砂等不足している状況にもあります。またおもてなしの面から考えても、椅子等の整備を少ししていただけないかなというところですけども、これまでもスポーツ施設のみならず大規模な改修、整備については武雄市の全施設を対象とする計画の中で今後検討していくと聞き及んでおりますが、どのように進んでいるのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部理事

○諸岡こども教育部理事〔登壇〕

体育施設等の補修等でございますけれども、これについては特に老朽化が進む施設について定期点検を行う中で、特に重点的に行いながら、危険性あるいは緊急性の高いものから必要に応じて修繕、改修をするということで進めておるところでございます。

それから全体的な整備の関係については、これまでも御答弁を申し上げておりますが、アセットマネジメントの計画、これに基づいて個別に全体計画を作成していくと、こういう中

で進めさせていただきたいと。いずれにしましても限られた予算の中で危険性、あるいは緊急性の高いものを優先順位をつけながらやっていくと。こういう方針で、市民の皆様が安全に施設を利用できると、こういうものを第一に取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

限られた予算の中で、アセットマネジメント計画の中で議論していくということですよ。

また、全体的には本当にお金がかかる問題で、優先順位もあるかと思えますけれども、スポーツをされる方の気持ちを少し考えていただくことも重要じゃないかなという観点からですね、いろんな――球場だったら、審判をされる方、プレイをされる方、いろんな方の意見を聞きながら、声を吸い上げながらそういう計画も立てていただきたいと思いますし、施設の周りにも、スポーツセンターの裏に今は使われていない管理人室等あります。整備をすれば、更衣室とかそういうふうに使え施設もあると思えますけど、こういうところも考えていただいて、計画を立てていただきたいと思います。

合併前の北方町においては、スポーツ推進の町ということで、当時の松本町長さん、施設整備にも大変御尽力いただいておりました。こういう状況になっている中でですね、本当に限られている財政の中ですが、今あるものを生かすという視点からもお願いいたします。

こども図書館についてですが、なかなか何となくぼやけた感じで見えてきません。これまでF1会議等の中でどのようなメンバーでどのような議論がされたのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上こども教育部長

○溝上こども教育部長〔登壇〕

F1会議について申し上げます。F1会議につきましては、子育て中の職員、あるいは子育て経験者の市の女性職員を中心に18名で構成されております。立場といたしましては、通常の業務から離れて、一市民、一利用者という立場で、大きく3つのコンセプトで意見を交わされております。

1つ目が、子どもが楽しく親も楽しく学べる場所。

2つ目といたしまして、親と子ども遊べるゆっくり過ごせる場所。

3つ目といたしまして、子育て応援ができる場所。

この3つの柱をもとに、こども図書館に備えたい機能についてハード面、ソフト面から意見を出し合い、報告書という形でまとめられたというふうになっております。

○議長（杉原豊喜君）

7 番池田議員

○7 番（池田大生君）〔登壇〕

3つのコンセプトから報告をされていると。この会議の報告書、資料としていただきましたけれども。

あとですね、図書館の利用者アンケートの結果を踏まえて、この事業の構想ができてきたんじゃないかなというところですね、こども図書館の機能の部分ですね、リニューアル前には、図書館にあった機能だと私認識しておりますけれども、そのアンケートの結果を踏まえてこのような計画になっていると思いますが、なぜこのような新たにつくらなければいけないという状況になったのか、その辺は検証はされたのでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上こども教育部長

○溝上こども教育部長〔登壇〕

その検証というかですね、リニューアル前に比べまして、実際キッズステーションというか、キッズスペースのスペース自体はほとんど変わっておりませんが、リニューアル前に比べまして、例えば児童書の配架本、あるいは子ども向けの講座、そういう回数等についても、およそ2倍から3倍にふえて、利用者も大幅にふえているのが実際の現在の子どものスペースの状況であります。

そういう中で、なぜ図書館をとということですが、子育て支援と教育につきましては市の最重要課題でございまして、こども図書館建設事業につきましては、その象徴的な事業の一つというふうに位置づけをしております。目的といたしましても、より豊かな親子の育ちを支援するという中で、子育て応援機能を持ったこども図書館の建設を進めていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7 番池田議員

○7 番（池田大生君）〔登壇〕

利用者等、2倍、3倍ふえて手狭になってきたという検証をされたということですね。周辺部にもですね、今まで公民館を使った子育て支援とかですね、開催したり、北方のほうには子育て支援センター等もあります。この利用も関連して、どのような検証がされたのかも聞きしたいんですけども、今もおっしゃられました、先ほどおっしゃられました、限られた財源の中でということではございましたけれども、この事業だけがですね、なんか子育て支援とかいろんなところを考えると、必要なものはあると思いますが、この事業が拙速に進んでいるように感じるのには私だけではないと思います。名前もキッズライブラリーを訳しただけで、前市長のやり残しをやっているような感じもいたしますが、新庁舎もかなりのお金をかけ、大きな庁舎ができます。いろんな議論の中でですね、庁舎にその、少しの機能、

——少しという言い方おかしいですけども、——庁舎にいろんなキッズスペースとかそういう機能を持たせたりとかですね、また、現在の、予定をされている、この間調査をされた場所が駐車場等の問題がないのか。そしてここ借地ですよ、いろんなランニングコストもかかってくると思います。そういうものもきちんと考えられたのか。

先ほども施設で申しましたけれども、なんか周辺部対策は小出しで、都市部はぼんぼんと箱物をつくる、そういうんじゃないんですね、しっかり、先ほども言われたアセットマネジメント計画の中で、しっかり議論するべきだと思いますけれども、建設ありきではなくてですね、しっかりと市民の意見を反映させた基本計画を先に立てるべきだと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

溝上こども教育部長

○溝上こども教育部長〔登壇〕

先ほども申し上げましたけれども、このこども図書館建設につきましては、市長の1丁目1番地の政策の象徴的な事業の一つということで位置づけておまして、その立地の場所につきましても、利用者の視線に立った場合、やっぱり現在の図書館、歴史資料館との一体的な整備が最善であるということで、現在の計画している場所に建設をしたいというふうに判断をしたところでございます。

そういうことで、今現在策定中であります基本計画に基づきまして、今後設計を出しますけれども、その基本設計ができてきた時点で、ある程度また詳しく説明等、図面等を交えながらできるかと思しますので、よろしく御理解をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

私は拙速だとは思っておりません。市民の暮らしを豊かにする、そして外から人を呼び込むと、まさにこの地方創生の時代で投資すべきときはタイミングを逃さず投資するというのが大事であると、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

人を呼び込むと、スピードも市長、大事だと思います。大胆な施策も大変必要だと思います。しっかりとですね、基本設計をしていただいて、しっかり議論をしていただいて、中身についてこの事業の目的が何なのか、先ほど総合的なというぼやけたところで言われましたけれども、福祉なのか教育なのかとかですね、そういう面を含めたところで、しっかりと目的を立てていただきたいと思っておりますけれども、とにかく市民目線ですね、考えていただき

たいと思います。何かぼやけたところが多くてですね、今現在、図書館問題で訴訟が起きている状況ですよ。スピードも大事ですけども、少し慎重になる場所も必要だと思います。また新たな問題が出てきて市民運動が起きることを若干懸念いたしますけれども、次に図書館にまいります。

選書の問題で12月議会での質問の中で確認をしたかったんですが、訴訟中ということで触れられないところもあるかもしれませんけれども、一番当初の初期蔵書ですね。これに関して図書館の司書の方々は、中古本の選書にかかわられたのかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上こども教育部長

○溝上こども教育部長〔登壇〕

リニューアルに合わせまして整備をいたしました1万冊の本につきましては、新図書館サービス環境整備業務ということでCCCに委託した事業の中で整備したものでございまして、当時の司書の方は選書にはかかわっておられません。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

サービス環境事業という委託事業の中で購入されたと、選書はされていないということですけれども、ちょっと確認ですけれども、この中古本ですね、これはボックス買い、——もう選書をされていないんだから、そのまま箱ごとぼーんと買われたような状態だったのか、例えばCCCに委託をされているんだとしたら、CCCのほうで選書をされたのか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上こども教育部長

○溝上こども教育部長〔登壇〕

1万冊につきましてはCCCのほうで選書をされたというふうに聞いております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

選書をされて、購入をされたということですね。雑誌名等に関しては、きのうの一般質問で中身にかかわるといってお聞きをしておりますので、私が確認したかったのはですね、当時の司書さんたちが選書をされたんじゃないかなということを耳にするときがあるんで、司書さんたちの名誉のためにもちょっと質問させていただきました。

次に、図書館利用カードの更新についてお尋ねしますが、まず個人情報の取り扱いについて、公共施設においてのほかの規約ですね、委託先等とかいろんな業者等の規約がある中に、

そういう規約がある場合、例えば市の規約、市の条例、セキュリティポリシー等も含め、どちらが優先だと認識されておりますか。お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部理事

○諸岡こども教育部理事〔登壇〕

個人情報の管理の関係については、12月議会でも御質問をお受けしまして、私のほうで御答弁申し上げたというところがございますが、当然のことながら武雄市と指定管理者であるCCC社とは、個人情報に関する規約あるいは協定書、こういうものを締結をしておりますので、当然これが優先をされるというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

武雄市の個人情報保護条例等とか、セキュリティポリシーがありますよね。この中で個人情報守っていきますよという規約、条例がありますよね。

それと、他の委託業者さんとか、そこにも個人情報等があります。情報の保護の規約等がありますよね、会社にしてもですね。それで協定を結んでいる中では、どちらの規約が優先をされますか。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部理事

○諸岡こども教育部理事〔登壇〕

個人情報の保護につきましては、当然のことながら法律あるいは市の条例、こういうものがあるわけございまして、これらに基づいて外れるというんですかね、そういうことがないのが協定を結ぶというふうにしておりますので、さらなる確認をするというような意味で協定あるいは規約で結ぶことによって補強していると、こう捉えていただいたほうがわかりやすいのではないかなと。

条例、あるいは法律に反した形で協定、あるいは規約を結ぶと。こういうことは当然あり得ないということがございますので、先ほど申し上げましたように、細かい部分まで定めたのが規約等であるというふうに御理解いただければというふうに思います。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

規約の中には第三者提供はだめだとか、外部に出さないとか、そういう個人を守る内容になっていると思うんですよね。別に、特別の規約がない場合は、例えば市の条例なんかは第

三者に提供なんかは禁止というか、出さないようになってる条例だと思いますけれども、それが違う場合には、もし認識が違う場合ですね、我々は第三者に出しますよという規約がある場合には、そういう場合どちらが優先をしますか。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部理事

○諸岡こども教育部理事〔登壇〕

先ほど御答弁申し上げましたが、条例の中でできないというような条例、あるいは法律にあっているものを協定等でやれるというふうなことを規定するということはありませんし、実際そういうことはしておりません。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

CCC関連のほかの図書館においては、マイナンバー等、通知番号を提示をしてくださいという図書の契約の仕方等、問題になりましたけれども、武雄市ではこのようなことはなかったかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部理事

○諸岡こども教育部理事〔登壇〕

そのような事実はございません。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

貸出履歴等、自動貸出機——この間、先日、富山の図書館のほうで、そこにも自動貸出機ありました。これはすぐ消えると。返却をしたときに、履歴すぐ消えますということですが、武雄の場合は貸出履歴等の管理はどうなっているか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部理事

○諸岡こども教育部理事〔登壇〕

貸出履歴については、当然個人情報ではございますので、個人情報の保護に基づいた対応をしておるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

個人情報の保護の条例にのっとって行っていると。貸出履歴は消えますか、消えませんか。

お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部理事

○諸岡こども教育部理事〔登壇〕

御答弁申し上げます。この分については確認をいたしまして、後ほど御答弁をさせていただきます。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに、静かに。

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

前の議事録を読むと、貸出履歴はすぐ削除されるということになっておりましたが、今ちょっと確認をしないとわからないということでしたので、次に、図書利用カードの更新はどのようにされているのか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

池田議員、今の分は重要な点ですので、確認をしてから後で答弁をするということです。

諸岡こども教育部理事

○諸岡こども教育部理事〔登壇〕

図書利用カードでございますけども、これについては有効期限が発行から3年ということでございます。

現在2月からの来館者、あるいは利用時において随時更新を行っているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

3年、有効期間が3年ということですね。

この図書利用カードの更新に対する告知方法についてはどのようになされていますか。お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部理事

○諸岡こども教育部理事〔登壇〕

先ほどの分を先に御答弁させていただきますが、これについては返却時で消去されるということで、御答弁はさせていただきます。

それから、図書利用カードの更新の個別対応ということでございますけども、これについては郵送等で個別で行うことはやっておりません。来館されたときに更新時期になっていま

すよということをお伝えをして、更新をしていただくと。

ただ、市報では武雄市図書館コーナーで掲載をしながら、更新の情報を流しているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7 番池田議員

○7 番（池田大生君）〔登壇〕

告知方法について郵送等に行っていない、図書利用カードについては行っていないということでした。

武雄市図書館からはがきが——これ、図書館からじゃないんでしょうね、多分、そしたら。蔦屋書店武雄市図書館と書いてある（資料提示）はがきが郵送されてきたんですよ。今、答弁で郵送等に行っていないということでもございました。郵送で、図書カードも含めたカードの更新ということで、これ私つくった分ですね。1 回も使っておりませんが、パスワード入力もいたしておりません。

それで、この図書館でつくったカードが、他の店舗でも更新できますということ書かれております。

あとですね、運転免許証、健康保険証等、現住所記載の郵便物を持参くださいと書いてありますが、ない場合は店舗に御確認くださいということでも書かれております。

これは図書館とは関係ない部分ですか。お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部理事

○諸岡こども教育部理事〔登壇〕

ただいまのパンフレットについては、私のほう把握をしておきませんので確認をさせていただきますと思います。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

7 番池田議員

○7 番（池田大生君）〔登壇〕

パンフレットじゃなくて、はがきですね。はがきが郵送されてきました。お見せします。

このはがき、ちょっと拡大したやつなんですけれども、郵送で——パンフレットじゃありません、郵送です、郵送です。

先ほど、関係ないということでもちょっと合図があつたようなんですけれども、郵送はしてないということ。

じゃあ最後にここお尋ねしますが、別ということであるならば、この武雄市図書館と書いてある中に、これは指定管理料の中から、これも経費の中に入っているのか入っていないのか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども教育部理事

○諸岡こども教育部理事〔登壇〕

申しわけございませんけれども、今の分については、御通告いただいておりますので、お答えについては控えさせていただきます。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに、静かに。

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

図書カードの更新ということで通告をいたしておりましたけれども、全般について郵送方法、告知方法についてお尋ねしますということで通告はしておりました。

あともう一つですね、スペースマーケットという会社があります。イベント等を企画される場所ですけれども、誤解を解くためにも武雄市図書館、——スペースマーケットさん、どういう関連の会社かわかりませんが、見るとですね、武雄市図書館、イベント企画、写真撮影、ロケ、監修、パーティー、あと演奏、パフォーマンス、結婚式という会場の取り扱いになっております。

こういう事実は、いろんなところで事実誤認を招くので、こういうことはすぐ是正をしていただくようお願いしたいと思いますけれども。

次にウェルカムハウスについてですが、さきの質問で事業内容等については詳しく説明があつておりましたので、27年から空き家を活用した教育移住者等について受け入れに取り組んでこられました、ウェルカムハウスの前の実績を、実情をお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

教育移住についてですが、27年4月に武内町、武内小学校で行っております官民一体型学習に対する目的で、3組の親子が移住をされております。

○議長（杉原豊喜君）

まもなく正午になりますけれども、このまま一般質問を続けます。

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

ウェルカム武雄ハウスについては、5町が対象だったと思いますけれども、今後、松尾議員の答弁で、様子、状況を見てということでしたけれども、東川登、西川登、橘については具体的なことはまだ考えておられないですか。お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

あとの3町につきましては、引き合いを、状況を見ながら対応していきたいというふうに考えおります。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

周辺部においては、今後進む人口減社会は非常に深刻な問題でございます。

また、この5町は、るる今までの質問の中で説明を受けてわかりましたけれども、あと周辺部対策として北方町、山内町の周辺部対策はどのように考えておられるのか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

先ほどのウェルカムハウスですけれども、まずは5町ということで、ここについては公営住宅がないということもございまして、ここについて教育上あわせて対応していきたいということで計画をいたしました。

北方町については、――北方町、山内町についても周辺部といえば周辺部でございます。

そういう意味で、北方町については武雄市の東の玄関口ということであり、交通アクセス、生活利便性のよさから、住みやすい町であるというふうに認識をしておりますので、また北方町まちづくり協議会の中でもいろいろ議論がなされております。皆さんと一緒に考えていきたいと。

あわせて山内町についても黒髪山を中心とする自然が広がっておりますので、そこの自然を生かしながら、あるいはいろんな、教育の先進地でもございますので、そういったものも含めて考えていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

このウェルカム武雄ハウス事業が公営住宅のない地域を重点的に、重点的というかこの5町に対応した事業だということはわかっておりますけれども、山内も北方も先ほど言われたように人口減進んでいきますので対応をお願いしたいと思っております。

またですね、移住者の方々、そういうウェルカム武雄ハウス事業も含めて移住者の方、移ってこられる方は不安もあると思いますけれども、どのような支援策を考えておられるのか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

移住者対策を今、お住もう課で対応をいたしております。

先ほど言いましたウェルカムハウスの設置場所については、教育移住等もありますので、教育移住に係る御相談も受けておりますけれども、そのほかに移住をしてこられる方については、特に仕事がない、こちらのほうに移ってくるには仕事があんまりうまくないところがあるというふうなことの御相談も多々ありますので、そういった部分については起業、——仕事を起こす起業、創業ですね、——こういった形の御相談もございますので、市、町内の関係部署であります地域経済課、あるいは就農については就農相談、農林課でやっております。

あるいは、勤めに行きたいというふうな御希望であれば、ハローワークというふうな形で各関係機関との、あるいは庁内の調整をしながら御相談をお受けしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

仕事など、仕事に関する部分は非常に不安が大きいところだと思います。移住者のためにもワンストップサービスは必要で、これからひとつ進めていただきたいと思っておりますし、市内在住者においても子育て中の就労や、特に我々世代になってくれば介護の問題も出てまいります。そういうときに、いろんな不安を抱えておられる方もおられます。

市内在住者にも支援策等を拡大していただくことも必要なんですけど、今後、先ほどハローワークと連携してということでもございましたけれども、今後、新庁舎もできます。ワンストップサービスの一環というか、支援策の一つとしてハローワークに端末があります。検索するやつですね、職をですね。いろんな職業を分類してたくさん入っているやつがあるんですけども、あれを新庁舎のほうに設置をすることができないかですね。それがあれば、就労に関しての支援策にもつながると思っておりますけれども、いかがでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

新庁舎にハローワークの端末を設置できないかということでもございますが、現在、佐賀、鳥栖、唐津については設置をしているということでもございましたので、調査をいたしましたところ、この利用については福祉事業、生活保護者の就労支援という意味合いでの連携で設置ができるということでもございまして、生保の世帯数や就労可能者数の基準がございまして、

武雄市にはちょっと設置ができないというような状況でございます。そういう状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

設置ができない状況であるということですね。でも、ハローワークとの連携を深めていただいて、いろんな、就労支援とか、今後続けていっていただきたいと思います。

次に、今後のICT教育の可能性について、タニタの、若木の食育スクールですね。ああいうものをちょっとお尋ねしようかなと思ったんですけど、先に詳しく陽輔議員さん、牟田議員さんに聞いていただきましたので、またそういう活用と、先日の大雪のときもSNSを活用した呼びかけ等で武雄市もいち早くフェイスブック等を活用して、いろんな案内を出されたということで載っておりました。

ICT教育だけじゃなくて、こういう部分でも、武雄市、取り上げられておりますので、今後のICT教育、タブレットの可能性ですね、深めていただきたいと思いますが、ほかにも可能性ありますか。教育長お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

市役所に見学に来る子どもたちがiPadを持ってきて、自分の課題のところを写真に撮ってまいります。あるいは、部活とか体育などでも写真の活用などやっております。

いろんな、多様な活動が、先生方、そういう、工夫していただいているということで、恐らく今後もいろんな活用が出てくるだろうというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

次に、官民一体学校、次、3校始まりますけれども地域支援本部の状況等、どのように現在進んでいるのか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上こども教育部長

○溝上こども教育部長〔登壇〕

お答えいたします。

4月の開校に向けまして、朝日小学校、橘小学校、若木小学校においては、学校、地域とも着々と準備を進めていただいているところでございます。

そういう中で今、地域支援本部ということで地域のほうに限りまして申し上げますと、現在花

まるタイムを支援していただく、そういう方々を今現在募集されておまして、既に多くの方々に登録をいただいております。

そしてまた、支援していただく皆さんには、実際の花まるタイムに積極的に参加いただきまして、理解を深めてもらっております。

さらに、花まるタイムで使います教材、その製作についても地域の方々の御協力を得て製作をしたところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

そして教育の最後、このたび代田さんが辞任をされますけれども、発表が12月18日ということでした。

同じ人事案が長野県飯田市で可決されたのが同じ日でございますけれども、この人事案の発表を待って発表されたのか、経緯についてお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

人事案件ですので詳細は省かせていただきますが、長野県飯田市のほうから議会の状況として、お名前まで出るという報告をいただきました。これは当然、こちらにも報道等伝わってくるはずでありますので、それが地元、あるいは市民の皆さんにとって少なからず影響があるものと考えまして、こちらから公にしたところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番池田議員

○7番（池田大生君）〔登壇〕

人事案についてわかりました。

まちづくりについて先ほどウェルカム武雄ハウスとも含めたところで、合併前、北方の松本町長さんですね、内水対策等にも非常に熱心に取り組んでられました。

また、炭鉱閉山時の人口激減のときも企業誘致、住宅政策に奔走され、今の北方町の基礎をつくってられました。

公営住宅の建てかえの問題——先日質問の中でもあっておりましたけれども、今後議論を重ね、今後は集合住宅がいいのか、空き屋を活用なのか、戸建てなのかというところで、地区や状況によって議論するところだと思いますけれども、北方の中央線の区域、都市開発区域として計画がある中、遊水地としての機能もあります。さらなる内水対策を考えなければいけません。

今後、住宅政策を含めたところで考えていくなれば、利便性に合わせたすみ分けなどを考

える必要もあると思います。

北方町の周辺部対策といたしまして、インターチェンジも近い、保育園や病院も近い、近くに介護福祉施設もある、買い物にも不便がないなどの、また水害の被害が低い条件などを考えれば、北方の西の地区がふさわしいんじゃないかなと私思っております。

今後、定住促進策が周辺部対策には重要だと私も思い、一般質問を終わらせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、7番池田議員の質問を終了させていただきます。

ここで、1時30分まで休憩をいたします。

| | | |
|---|---|--------|
| 休 | 憩 | 12時11分 |
| 再 | 開 | 13時30分 |

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

ここで午前中の池田議員の図書館に関する質問に関する答弁について、執行部から補足したい旨の申し出がありましたので、これを許可します。諸岡こども教育部理事

○諸岡こども教育部理事〔登壇〕

午前中の御質問についてでございますけども、御答弁を申し上げましたように、図書利用カードの更新につきましては、更新者への郵送でのお知らせは行っていないということであります。

先ほど、はがきをお示しいただいたわけですけど、このはがきにつきましては、TSUTAYAさんですが、こちらのほうで有料レンタルをお借りになるときに登録をされている方に対して、更新時期がきているということで案内のはがきを出されているということでございます。

当然のことながら営業活動でされている分でございますので、その費用はそちらのほうで賄われているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

それでは一般質問を続けます。

次に、23番江原議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

（全般モニター使用）議長の許可を得ましたので、一般質問を始めさせていただきます。

きょう3月10日ですが、あすが、東日本大震災が起こって5年を迎える日でございます。改めて、5年前、前市長に対して原発ゼロの日本を目指して自治体としての取り組みを質問した経緯を経て、小松市長への地方創生と原発問題についての認識を質問させていただきます。

3月1日、3月定例会が開会し、市長の演告が市政方針、説明がございました。聞きながら感じたことについて述べたいと思いますが、市長自身は市長ブログで2月25日、岩手県陸前高田市に行かれた様子が掲載されております。

当然、この3月議会でそうした思いにも触れられるかと思いましたが、5年目を迎えるこの東日本大震災に当たったの思い、報告がございませんでしたけれども、あえてそれを問うわけではございませんけれども、私はこれから述べることについて、——本当に今、日本の政治のあり方が問われているかと思しますので、第一の質問として先ほど言いました地方創生と原発問題、地方創生のテーマが、元気で豊かな地方を創生するための施策を総合的に推進する、地方創生、まち・ひと・しごと創生法の施行に伴って地方自治体の取り組みが進んでいます。

一方で、安倍政権のもとで原発再稼働が進められています。今、新規制基準に伴って15の原発、22基の原子力発電が新規制基準に基づいて原子力規制委員会に申請をされています。当然、佐賀県にあります玄海原発もそれに入っています。

こうした現状を踏まえて、市長の原発問題の認識について、まず伺っておきたいと思えます。よろしく申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

まず、私のエネルギーに関する基本的認識ですけれども、エネルギーは生活の安全保障だというふうに考えております。安定的に供給することが大事であると。

この資源のない我が国においては、その資源のもと、これについてはベストミックスが望ましいというふうに考えております。

その上でなんですけれども、原発につきましては、将来的には依存しない社会が望ましいというふうに認識していると。

一方で現状、再生可能エネルギーの技術開発状況等々を見ますと、やはり原発を今すぐに廃止するということは現実的ではないと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

共同通信のアンケートが行われているようであります。新聞にも掲載をされておりました。全国の自治体の市長に対してアンケートが行われておるようであります。3月7日の地元新聞に掲載をされております。

このアンケートについての内容について御答弁を求めたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

このアンケートですけれども、原発は今後どうすべきか、私は将来的に廃止。停止している原発について再稼働についてどう思うか、条件付賛成と回答しております。

○議長（杉原豊喜君）

23 番江原議員

○23 番（江原一雄君）〔登壇〕

私は初めて、小松市長に対して原発問題についてお尋ねするわけですけれども、将来的に廃止ということ、安定的にエネルギーが必要だと。ベストミックスが必要であり、現状は再生エネルギーが——今すぐに廃止ではないということをおっしゃいましたが、ではこのアンケートに答えられた将来的に廃止という意味合いについてお尋ねしますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今、原発も 40 年を超えてというような状況になってきています。私は安定的なというか、供給が大事であるというふうに考えておまして、そこは再生可能エネルギーの今後の伸びを見ながら考えていく必要があると、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23 番江原議員

○23 番（江原一雄君）〔登壇〕

2 点目の、再稼働する場合の地元同意についても答えられているようですが、これについてはいかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

地元同意については、立地自治体、玄海町、佐賀県とUPZ圏内と回答をしています。

○議長（杉原豊喜君）

23 番江原議員

○23 番（江原一雄君）〔登壇〕

再稼働する場合の地元同意の範囲であります。県と玄海町、UPZ圏内、このUPZ圏内ということについては、これまで東日本大震災までの、いわゆる政府の範囲はおおむね 8 から 10 キロを想定して、避難体制をつくってきたと。

先週の日曜日と月曜日、NHKのテレビで 9 時台に、この原発問題について当時の原発事故からの当時 7 日間の映像が流れておりました。翌日は、いわゆる自然界のこの様子をつぶ

さに放映があっていました。私はそれを見ながら、この市長が答えられている、再稼働する場合の地元同意の範囲について、県と地元自治体、UPZ圏内、これはおおむね30キロ範囲ということで、国際原子力機関IAEAが定めたUPZ、緊急時防護措置準備区域がこれまでの8キロから10キロを、おおむね半径、原子力発電から30キロということで、県内では唐津市や伊万里市が該当するという答えのようではありますが、資料を見てみましても、武雄市内の一部、これまでも該当30キロ圏内ということで避難訓練もされました。

私はこのUPZの範囲の問題からしますと、市長の認識はどのように受けとめておられるかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

現在、川内原発においても地元の自治体が地元同意の範囲となっております。私はそれでは不十分であると。そして、私自身が福島に足しげく通ったという、そういった経験も踏まえまして、30キロというのは1つの線引きとしてあり得ると。

ただし、私はそこに線を引いたからといって、武雄市の市民の方の安全を守る必要はないと、全くそういうことは考えておりません。そこは市民の安心・安全は第一であります。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

もちろん当然こうした基準の見直し、福島原発を経てこの8キロから10キロ、これが大問題だということが、先ほど紹介しましたNHKの放映でもあっていました。

8キロから10キロがおおむね30キロにUPZの圏内が広がったということで、その範囲に——モニターお願いします。——玄海原発からちょうど30キロ圏が唐津市、伊万里市も入るわけです。武雄市がここに一部30キロ圏内に入る。武雄市はおおむね30キロ圏から50キロまではありませんけれども、ほぼ30、40、45キロ、玄海原発から直線にしてくるわけがあります。

それ考えますと風が北西の風、いわゆる西から風が吹いてくる場合、福島原発のあのスピーディーの、あの映像を見ますと、本当に放射線駆け回って、舞っていることを映像で見たわけではありますが、UPZ30キロ圏が入るという意味で、そのことについて今、市長にお尋ねしたわけですが、武雄市もかかる、この認識はお持ちだと思いますが、それについての認識を伺ったわけですが、改めてもう一回お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

福島において放射能がどのように飛んだか、これも私は存じておりますし、やはりそういうことあってはならないんですけども、玄海原発で仮にそういうことがあった場合に風向きというのが影響するのは承知しております。

武雄市としては、やはりその原発に対しても避難訓練をしたり、そういった万全の体制をとっていきたい、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23 番江原議員

○23 番（江原一雄君）〔登壇〕

UPZの圏内で武雄市も入るということで、武雄市も唐津や伊万里市と同様に、そうした圏内の一部だと、一自治体だということでも声を上げるお気持ちはありませんか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

地元自治体同意の範囲は、先ほど申し上げましたとおり玄海町、佐賀県、そしてUPZが私は一定の線引きとして適当であろうというふうに考えております。

ただ一方で、武雄市における原子力の訓練等、安心・安全を守るための準備というのはしっかりとやっていく。そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23 番江原議員

○23 番（江原一雄君）〔登壇〕

5年前にですね、——私は先ほど言いましたけれど、平成23年——2011年の12月議会で一般質問を前市長にいたしました。原発ゼロを目指して市の取り組みについてお尋ねしました。

そのとき市長は、福島に行っていますかということをおっしゃいました。

私事で申しわけありませんけれど、当時私の体調が不良でありまして治療中ということで、本当に3・11のあの様子を見るときに、いたたまれない思いをした一人ではありますが、やっぱり現地に足を運ぶべきだということで、今月、いわゆる玄海原発から、あるいは福島原発から50キロ、60キロ圏で全村避難している福島県の飯館村に行ってきました。私は、やはり行ってよかったですと思います。やはり現地の皆さんの苦しみ、そして思いを共有する。一部共有しながら帰ってまいりました。

これはちょうど飯館村の、村の入り口であります。これが飯館村の役場であります。ちょうど飯館村の中心にあります。そして、至るところに田んぼの除染が進んでいます。田んぼの表土を3センチ廃土して、この袋1トンあるそうであります。これが飯館村だけで150万袋、今こうして保管されております。

ちょうど日曜日のある民放のテレビでも、福島県内被災地で1,000万個、この除染袋が積み上げられているということが映像で出ていました。

私はこの様子を見て、せつかくの先祖代々つくってきたこの表土を剥ぎ取られたら、農民にとっては、まさに生活の糧を剥ぎ取られているんだなと思いました。

そして、この表土を剥ぎ取ったかわりに、飯館村役場近くの山がごっそり、赤土が掘削されてダンプで運ばれているようであります。そのダンプのナンバーを見ますと、各県いろいろありました。車ですれ違うときに、青森県のナンバーや、茨城県のナンバーや、いろいろ遭遇しました。まさに、今の被災地の様子を垣間見ることができました。

これが、いわゆる帰還困難区域であります。双葉町の当時小学生が原子力明るい未来のエネルギーという標語で、まさに安全だ、原発は安全だという、こういう標語のもと、地元の人たちも含めて、原発は安全だということがここに証明されているのではないかと思います。

しかし、これが数週間前に撤去されたそうであります。私は東日本大震災、福島原発事故を受けて、本当に原発に頼らない日本社会づくり、そして自治体で取り組むことが求められているのではないかとということで、次に質問したいと思います。

これまで、その再生エネルギーの問題で、平成21年から24年まで武雄市住宅用太陽光発電システム設置補助金等交付実績がございますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

武雄市といたしまして、太陽光の発電普及率ということで一定の補助を出したということで、事業の実績がございます。

数字については手元にございませんで、事業を行ったということだけお答えをさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

資料をお願いしていただいておりますので、お手元にお持ちかと思いましたが。

この間、申請件数が777件、そのうち交付したのが754件で、補助金の交付総額が6,739万1,000円。大体平均1件当たり9万円交付して、施工した、自然再生エネルギーの取り組みを実際されています。しかしこれが今、全くありません。

先ほど市長言われましたように、将来的に廃止ということでもありますので、やはり自然再生エネルギーへの自治体としての取り組みを求めたいと思いますが、そのお考えはありますか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

現在の安倍内閣のもとで昨年つくられました将来の電源構成というものを見ますと、再生可能エネルギーは将来予測としてその割合は伸びているということですので、私もそこを参考に、今後技術の革新状況等を見ながら検討してまいりたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23 番江原議員

○23 番（江原一雄君）〔登壇〕

先ほど紹介しましたアンケートに答えられたように、将来的に廃止ということでは、やはり佐賀県市長会あるいは自治体の長として、そうした協力を、手を携えて再生可能エネルギーへの取り組みを図るべきではないかと訴えるものであります。

私はこの5年間の経験で、一番経験したのは3つあるわけですが、1つは安全神話が崩れたと。2つ目には、原発事故がたび起これば生活が根底から破壊する。特別異質の危険があるということ。3つ目には、この5年間2回にわたって原発が稼働しなかったときを約2年経験をしたわけでありまして。原発なしでもやっていける日本経済の姿を示したと思っています。

だからこそ、原発ゼロへの日本社会の取り組み、それは政治の役割だと思います。だからこそ、そのためにも自治体の首長として、先ほどアンケートに答えられた視点を踏まえて、直ちに取り組むことを求めておきたいと思っております。

次に、図書館問題に移ります。

実は図書館問題、——ちょうどリニューアルして丸3年を迎えようとしているわけですが、この間いろんな視点で質問をしてきました。

きょうは、ある市民の1人の方が体験したことを紹介したいと思います。コンサートに行くために、事前に演奏される曲を聴いておきたいと思って、図書館に行って聴きたい曲を尋ねたらありませんと言われました。しかし一方でCCC、レンタル店にはあります。しかしそれは有料でありますとの返事でびっくりしたと。

そこで担当部に問い合わせたら、廃棄しているとのことでありました。この曲が、——これが、武雄市図書館・歴史資料館リニューアル時の図書資料の除籍一覧表がありますが（資料提示）、ここに8,760点、一般書が2,610点、児童書が707冊、巡回用図書7冊、雑誌2,180冊、紙芝居2冊、ビデオVHSが1,468点、CDが1,322点、DVDが464点、合わせて8,760点除籍をされました。

その中に、聴きたかったと言われているCD、作曲家ラフマリノフのピアノ協奏曲第2番ハ短調作品18というCDであります。もう一つ、聞きたいなということの曲がありましたけれども、それは除籍したこの表には入っていませんが、その方は、——今現在リニューアル

された図書館に設置されている現在の数が、ビデオが 20 点、CD が 321 点、DVD が 917 点、合計の 1,258 点あるわけですが、ほぼ 3 分の 1 に減っています。

そして、これは隣接の図書館の、この CD、DVD の閲覧場所であります。武雄市図書館は撮影禁止、ましてこうしたコーナーはなくなりまして、ただ先ほど言いました 1,258 点が並んでいるだけであります。これは隣接の図書館の子ども用の視聴室です。こちらは大人用の視聴室であります。

私はこうした、リニューアルされた、現在の委託された図書館が、市民にとってサービスの後退の姿そのものではないかと思いますが、教育長の認識はいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

溝上こども教育部長

○溝上こども教育部長〔登壇〕

ただいま議員のほうから CD、DVD の話が出ましたけれども、これにつきましては、リニューアル当初のころはこういう CD、DVD、要望たくさん寄せられておりました。

しかし最近の図書館利用者アンケートの結果では、要望順位は随分低くなっている状況でございます。

そういうことで、CD、DVD については、毎年購入は続けておりますけれども、どうしても DVD などは高額になるとか、限られた図書等の購入費の中で十分な品ぞろえができていないというのが現状でございまして、そういう状況ということをお伝えしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

23 番江原議員

○23 番（江原一雄君）〔登壇〕

私はここにですね、リニューアルされて CCC に委託された本質があるんじゃないかと思っています。

今まで市民への図書館の本来の機能として、平成 12 年にオープンしてから長年築かれてきた図書館運動、図書館行政が一举にして有料に変えられてしまったと。

先ほど紹介しました、有料だったらありますよと。これは明らかに委託業者への、まさに利便性の供与ではないかと指摘せざるを得ませんけれど、教育長の認識いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

これまで幾度も述べてきたところでありますが、図書館リニューアル時におきまして、市民の皆さんの要望を聞いた中で、この音楽等、映像等への要望もかなり強かったわけでございます。そういうことで、現在のリニューアルをなされたという形であります。

○議長（杉原豊喜君）

○23 番（江原一雄君）〔登壇〕

ちょっと教育長の答弁矛盾ですよ。要望は強かった、だけどCCCのレンタル店、まして歴史資料館の既存の施設を廃止して、CCCのレンタル店にさま変わりした。この事実は、今の教育長の認識ではまさに矛盾、自己矛盾じゃないかと思います。市民の要望が強かったわけでありまして。リニューアルする必要はなかったと言わざるを得ません。

私は、先ほども何人かの議員の皆さんが質問されているように、また9月、12月も質問しましたけれども、蘭学館をもとに戻しCD、DVD、ビデオコーナーの復権を求めたいと言わざるを得ません。

これまで、るる前市長のもとで進められてきたわけでありまして、こうした事実が明らかになっている。

さて、次の2点目のこども図書館の問題であります。

12月の議会に測量設計業務委託料151万2,000円、用地借上料30万、これは月10万円、1、2、3月分です。

多分、当初予算に年間の1年分120万計上されているのかなと思いますが、私は12月議会の中で反対討論をいたしました。それは、これまで市長が、昨年1月11日当選したあかつき、1月17日の地元新聞、もとい全国紙の新聞に、そして1月22日の地元新聞では、財政面から新築で建てかえることは考えていないと語られ、今のところ財政事情を勘案すると新しくつくるつもりはない、見直しを明言されました。こうした報道がありました。

しかし、1月26日、市議会全員協議会では釈明をされました。新築で建てることを前提に考えていないと。ここには、市長としての施政がひっくり返っています。

さらに、この12月議会では市長ブログや、12月2日開会の日々の演告では、こども図書館を新築で現在の図書館の西側につくることを決定しましたと述べられましたが、一般質問の中での答弁で、建設することを決定ではなく建設予定地を決定したと変更されました。

このようにまだ明確ではないものを予算に組んで、測量委託料、借上料の補正を組むのは時期尚早ではありませんかと訴えました。

さらに反対の第2の理由は、こども図書館問題はそもそも平成25年4月改修された武雄市図書館・歴史資料館の中の、以前あった子どものコーナーが変更になり、お話の部屋が廃止になり、そのことで不満の声が寄せられたわけではありませんか。以前の子どもトイレの水道管が、今コーヒーの水の水道管にさまわりをしていることでもあります。

さらに、この問題になった改修時の選書問題が表面化いたしました。市当局の説明責任が果たされていない、改修のありさまが問われていることを見ると総括されていません。こども図書館をつくる根拠が問われています。

さらに第3の理由に、地権者の同意も売買でなく借地としての利用であり、行政の進め方

として強引でないかと指摘せざるを得ません。

私は昨年この12月議会のときに、こうした予算を組むことに反対、撤回をするよう求めましたけれども、議会は賛成多数で可決をし、その準備が進められています。

そこで、この図書館問題について先ほど池田議員のほうからもありましたけれども、まさに拙速だと思うわけであります。

この取り組みを中止するべきだと、市長、訴えたいと思いますけれどもいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

撤回するつもりはございません。

議会の皆さんの、用地に関しても同意をいただいておりますので、積極的に進めてまいります。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

私はさっきの質問のやりとりを聞いていて思いました。まさに拙速であります。1年前はつくりませんと市長自身がインタビューに答えられて、それを、反対に推進の立場に心変わりをして、そしてまた基本計画もないまま進められています。

私は——このこども図書館の問題については、今度当初予算にも計上されているようですが、総額幾らか。そうしたお金を投資するなら、4億5,000万といわれる——このリニューアル時、もとに戻すことこそ、——このこども図書館が、以前の図書館が、歴史資料館が機能していた、お話の部屋があり、子どもの目線で子どもの本が並べられてありました。

こども図書館をつくるなら、投資をしてお金をそそぐならもとに戻す、そのことこそ求められているではありませんか。

まさに箱物づくり、そしてまたその運営費、今後どうなっていくんでしょうか。

御答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上こども教育部長

○溝上こども教育部長〔登壇〕

今後の運営費等の御質問でございますけれども、まだ設計も出す前でございまして、その後のことについては具体的な検討には入っておりません。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

今の教育部長の答弁も、まさに市長が拙速に進める、そのことのリアルな答弁で、それ以外に答える方法はないのかなと思います。

市長いかがでしょうか。(発言する者あり)

○議長(杉原豊喜君)

小松市長

○小松市長〔登壇〕

私は、きちっとした段取りを踏まえて進めているものと理解しております。

○議長(杉原豊喜君)

23番江原議員

○23番(江原一雄君)〔登壇〕

市長は強がりでお答えになっているのかなと言わざるを得ません。

私は、このこども図書館、建設費が幾ら、あるいは運営費がどうなる、また、どういう運営形態になるのか全くわかりません。それで、ただ進める、市長言われてますが、私はそれでは市民への説明責任は果たされていないと思いますがいかがでしょうか。

○議長(杉原豊喜君)

小松市長

○小松市長〔登壇〕

繰り返しては申し上げませんが、本議会においても、そしてこれまでの議会においてもこども図書館をつくる意味、意義については、事あるごとに私のほうから御説明させていただいているものと理解しております。

○議長(杉原豊喜君)

23番江原議員

○23番(江原一雄君)〔登壇〕

中身かれこれについて基本計画もない、財政の手当もない、運営費の見通しもない。これで説明責任果たされていると市長はお思いなんですか。

今のこども図書館のありさまを、るる申されました。でも、そのことは以前の武雄市図書館・歴史資料館が現に存在している姿そのものではありませんか。そのことを私は申し上げているわけです。

ですから、リニューアルしたことが大問題だったということのあかしではないかと指摘せざるを得ません。いかがでしょうか。

○議長(杉原豊喜君)

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

今おっしゃっているとおりを受けとめられては非常におかしな形になりますので、幾つか

の点を述べさせていただきます。

まず、これまでも御報告してきましたように、今利用していただいている方ほとんどが、8割以上の方、9割近くの方が非常にこう満足した形で利用しているというアンケート結果を毎年報告してきたところであります。つまり、リニューアルしてよかったという形であります。

2つ目に、利用者の方の状況を毎月図書館から御報告いただくわけではありますが、確かに1年目ほど来館者は多くありません。しかし、ずっと1年1年、市内の方の利用、貸出率が非常に高くなってきております。当然と言えば当然ですが、開館以来、次第に市民のものとして定着してきている方向があるというふうに見ております。

3つ目のことについては、こどもコーナーのことについてであります。リニューアル開館以来、非常にたくさんのお子どもたちが来てくれておりまして、さらに手狭になったということが非常に大きいわけでございます。

そういうことで、その現状の理解に甚だ違いがありますので、そういうふうに報告させていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

教育長の答弁聞いていますと、当時アンケートをとったと言っても市民全員にとったわけじゃありません。来ている来館者300人とられて、そのうちの85%がいいですよ、でも15%はいる、そういうこと考えますと、私は——それは今のリニューアルされた図書館を推進するための答えではないでしょうか。

私はあえて、このこども図書館の建設については拙速だと、中止を求めておきたいと思えます。

次に3番目の、市長の政治姿勢についてお尋ねをします。

昨年1月11日、佐賀県知事選挙、武雄市長選挙が同時に行われました。このときの政治資金について、この間マスコミで報道されていますが、市長としてどう受けとめておられますか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

まず事実といたしまして、私は政治資金規正法に基づき適正に処理をしております。

一部の新聞、——あまり影響力はないかもしれないんで、皆さん御存じないかもしれないんですけども、その報道には甚だ迷惑をしております。私が、まるでこう法律違反をしたような、そういうふうな捉え方をされてしまう、そういったふうにも思わざるを得ません。

非常に迷惑しております、不快の念を抱いているところであります。

改めて申しますけれども、この場で誓って申しますのは、政治資金規正法に基づいて適正に処理をしているということでもあります。

○議長（杉原豊喜君）

23 番江原議員

○23 番（江原一雄君）〔登壇〕

多分それが当たり前であります。

私は、——だから火のない所には煙は立たないわけでありますので、やっぱり常にこの政治資金規正法の全ての帳簿に照らし合わせて運営するべきであります。

しかし、政治資金規正法第 22 条の第 2 項は御存じでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今ちょっと手元にありませんので、何条の何項というふうに言われましても、すぐにはお答えできかねます。

○議長（杉原豊喜君）

23 番江原議員

○23 番（江原一雄君）〔登壇〕

当時の報道で、小松市長も、取材に対し寄附の出所は知らない、こういうコメントが掲載をされているわけですが。政治資金規正法第 22 条の第 2 項には、同一の者に対する寄附の制限、個人のする政治活動に関する寄附は、各年中において政党及び政治資金団体以外の同一の者に対しては 150 万円を超えることができない。

しかし、小松市長の個人の後援会に 200 万円の寄附が掲載をされておりますが、そのことと照合してみても、今の御見解を求めるわけではありますが、いかがでしょうか。（「議長、全く違うことやけんが。嘘の質問させたらいかんたい」と呼ぶ者あり）

嘘でもなんでもない。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長、否定すべき部分は否定をしてください。身分にかかわることですよ。

小松市長（発言する者あり）

静かに。

○小松市長〔登壇〕

全くこう事実と反することをここで言うていただくとです、それこそ名誉毀損ですよ。（「そう、そう、そう」と呼ぶ者あり）

事実を皆さんに申し上げます。自民党の第 2 支部から 200 万円が私の後援会に寄附をされ

たということでありまして、今のお話ですと、あたかも個人の方から150万円を超える寄附を受けたというふうに取り立てられてしまうんですけども、それは全くの事実ではございませんので、そこはですね、もうしっかりと事実に基づいて質問してくださいよ。

○議長（杉原豊喜君）

江原議員、身分にかかわることですので、そこら辺は十分に注意をして質問してください。

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

だから私は先ほど言いましたように、一番最初市長が答弁されましたように、迷惑だと言われましたが、そうした報道に対して市民の声として思いを、市長にちゃんとした説明責任をしてほしいという思いで伺っているわけでありまして。（発言する者あり）

これは、私も以前体験したことがありますけれども、この問題については……（発言する者あり）私は政治家として今ほど、今市長言われましたように。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに、静かに。

○23番（江原一雄君）（続）

だからこそ、こうしたことが、今市長答弁されましたように、明らかに問題はないと市長答弁されました。それをちゃんと聞きました……（発言する者あり）今、聞きました。私は指摘したその問題について、いかがかと聞いたわけでありまして、……（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○23番（江原一雄君）（続）

それはありませんと言われました。（発言する者あり）私はそれについて、ちゃんと説明責任を果たしてくださいと、お尋ねをしているわけでありまして。（発言する者あり）

私は——この知事選挙、市長選挙が同時に行われました。ここで問われているのは、やはり企業献金や物が、本当にやっぱりその年の年度にわたって、受注契約がある企業からもらったらいけないという公選法があります。（発言する者あり）だから、それが根拠として述べられると報道があったわけでありまして。（発言する者あり）私はそれが、……（発言する者あり）その報道に対してちゃんとした説明責任を求めているわけでありまして。（「今言んさったたいね」と呼ぶ者あり）

だからこそ今市長は迷惑千万、迷惑だと、まるで法律違反のようと言われましたが、迷惑だと言われました。ちゃんとそれを……（発言する者あり）ちゃんと答え……（「答えたとうもん」と呼ぶ者あり）答えられたことを今受けとめております。そこで、そうした思いをちゃんと答えられましたので、承っておきたいと思っております。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

江原議員、ここだけはですね、さっき言いましたように身分にかかわる問題ですので、十分発言するには責任を持って発言していただきたいと思います。

江原議員（発言する者あり）

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

市長としてちゃんと否定をされたということを、ここで。

○議長（杉原豊喜君）

市長、説明されましたよさっき。

○23番（江原一雄君）（続）

はい、確認したいと思いますが。（「質問が間違えとうよ」と呼ぶ者あり）

間違いじゃありません。（発言する者あり）

では時間ありませんので。

4番目の、JR九州三間坂駅無人化について質問したいと思います。

モニターお願いします。（「ちょっと議長、とめんばいかんさ」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

この件に関しては今質問されておられませんので、とめております。

○23番（江原一雄君）（続）

さきに、2月26日の地元新聞にJR九州の報道として、JR九州は3月26日のダイヤ改正にあわせて、長崎線の肥前白石駅、佐世保線の三間坂駅の県内2駅を含む在来線9駅を無人化する、こういう報道がされましたけれど、市長、連絡があったのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

武雄市といたしましては、昨年JRのほうから御連絡をいただいております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

これが、山内町、佐世保線の三間坂駅の駅舎であります。これは、——山内町は当時50周年記念事業として駅舎の改修、リニューアルがされまして、屋根の瓦の入れかえとか、柱の化粧直し含めてリニューアルをされました。本当に、肥前白石駅も一緒ですが、これも三間坂駅も同様なのは、歴史を刻まれた駅舎ではないかと思います。駅に込めた利用者の思いがあろうかと思います。

JR九州が新幹線に取り組むと同時に、一方でこうしたローカル線の無人化がどんどん進められて、JR九州567駅のうち291の駅が無人化になる。まさに半分となっているわけですが、このJR九州での無人化の廃止をやめてほしいという要請を市長にお願いした

いわけではありますが、取り組むお考えありませんか。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長（発言する者あり）

静かに、静かに。

○平川企画財政部長〔登壇〕

J R三間坂駅の無人化につきましては、昨年御連絡をいただいた上、地元の区長会のほうにも本市から説明、それからJ Rからも2回にわたり説明に赴いていただいております。

こうした地元への丁寧な御説明をさせていただいて、今回の件につきましては、利用される方々の安全、こういったこともきちっと守っていただくということもありますし、経営上いたし方ないというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

部長答弁、いたし方ないと言われますが、やはり町民、市民の安全を考慮するのならば、本当に、今委託をされているわけでありまして、そうした財源が結局保障されない経営になっているのはわかるわけでありまして、こうした市民の利便性向上を後退させることは安全面にとってもまさに後退であります。

ぜひ、J R九州への廃止を強く求めたいし、自治体の長としてそうした思いで、J R九州への要請を、やめてほしいという要請をお願いしたいわけでありまして、再度お願いいたしますがいかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

本市といたしましては、J Rの中で経営判断をされたというふうに考えておりますし、説明をいただいた内容は、先ほど申し上げましたとおり、いたし方ないというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

じゃ、時間が来たので終わります。

〔18番「議長、議事進行」〕

○議長（杉原豊喜君）

以上で、23番江原議員の質問を終了させていただきます。

18番山口昌宏議員

○18番（山口昌宏君）

議事進行させていただきたいと思います。というのは、ただいまの江原議員の質問の中で公選法等にかかわることで、本人の名誉のために、私も取材を受けておりましたので申し添えますけれども、議長に注意をしていただきたいのは、個人献金の150万以上、小松氏に入ったという言い方をされましたよね。全くそれ嘘なんですよ。

というのは、自民党の武雄第2支部に入った金が、その後に小松政後援会に入っているわけですね。あくまでも個人献金じゃないんですよ。この個人献金というのはですね、皆さん方御存じかと思いますが、自民党の支部に仮に入るとすれば2,000万まではオーケーなんですよ、1年間に。それと企業献金の場合はですね、会社の資本金に対して750万から1億円まではオーケーなんです。

じゃあ、彼がさっき言ったことは何だったのかといえば、150万じゃなくて200万円の個人献金を受けたかのように彼は言ったですね。それは全くの嘘なんです。ということはですよ、200万を受けたということであれば、市長は法に違反しているわけですね。200万本当に受けたのであれば。ところが、それはないちゅうことなんですよ。ちゃんと取り消しをさせてくださいよ。

お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

ただいまの議事進行についてはですね、議事進行の提出者である山口昌宏議員から詳細にわたって説明いただきました。

江原議員の質問に対して市長の答弁は、市長は何ら関係していないということを申されておりますので、私も市長の答弁を聞いて、そのとおりではなかろうかと思っています。個人からの献金、これではないと。政治団体、自民党第2支部からの寄附金ということで、これは法に基づいて対応されており、報告書も提出されているということで、多分テレビをご覧になっている皆さん方もですね、きょうの一般質問を聞いている方も、変に誤解される点もあると思いますので、今私が申した分もお聞きいただいでですね、何ら関係ないということとを再認識させていただきたいと思います。

また、江原議員には、先ほど申しましたように、本当に議員、また市長、公職にあるものの身分にかかわることですので、ここら辺は十分な検証をしてからの質問をしていただきたいと思っております。

一部についてはですね、議長の職権の、議事整理権の中で、必要な分は訂正をして、本人にも申し入れをしたいと思っております。

ここで、モニター準備のため10分程度休憩をいたします。

| | | |
|---|---|--------|
| 休 | 憩 | 14時36分 |
| 再 | 開 | 14時46分 |

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、18番山口昌宏議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。18番山口昌宏議員

○18番（山口昌宏君）〔登壇〕

（全般モニター使用）いよいよ最後となりまして、私の一般質問がまわりましたので、ただいまより一般質問をさせていただきたいと思っております。

今回の項目として3項目上げておりますが、まず1つの問題として環境問題、2番目が教育問題、3番目が市長の政治姿勢についてということであげております。

では早速ですけれども、1番目の環境問題ですけれども、環境問題を話すときに、里山資本係という係ができたという中で、その里山資本係というのは果たしてなんなのか、何を目的にできたのか、まずそれをお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

里山資本係に対する御質問ありがとうございます。

〔18番「入っとらん。マイクの入っとらん」〕

○井上営業部長〔登壇〕

すみません。

御質問ありがとうございます。

まず荒れている里山に入るということで里山再生を図っておりますし、それから高齢者の方がそうした形で活動していただけますと、健康寿命を延ばすという形の分で、健康づくりに寄与するということでございます。それから所得の向上を狙うという、この3本柱でスタートしたわけでございます。

実は、これまで活動したことで3つ大きなことがありまして、1つは御承知のとおりサカキ、それからシキミの生産に向けた取り組みでございます。

サカキの定植後、栽培、育苗技術の習得のための研修活動を9月から3月現在まで、全9回実施しております。また市場調査、それから販路開拓を計4回行い、県とも活用の検討の打ち合わせを行ったところでございます。

2つ目は、サカキ、シキミに続く地域資源の発掘及び市場の調査を行っております。ショウガ、それから薬用作物、

〔18番「もっと簡潔でよか」〕

山菜などやっております。

すみません、もう一つだけ。

里山再生事業はですね、地域の方に御理解いただくために、公民館や老人クラブを訪ねて、いろんな御意見を頂戴してございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

18番山口昌宏議員

○18番（山口昌宏君）〔登壇〕

環境問題というのには全く関係ないように、なんでこう聞きよっとやろかなという気持ちで聞かれている方もおられるかと思えますけどですね、これ大いに関係があつてですね、本当に里山が今どうなっているのか、恐らく市長も、今答弁をされた部長もわかっていないんじゃないかと思うんですね。わかった上でこれをもしやるのであれば、私もわからないことはないんですけど、——ちょっとモニターいいですか。

実はですね、これ1月23日、朝の8時半ぐらいだと思うんですけども、実は杵島山に私が登っていたんですけど、そのときに中島さんという方とお会いをしまして、その人は社長さんなんですけれども、その社長さんが、なんしよーと言うたら、実はうちの山にごみば捨てとったけんが、おい片づけよったという話だったんです。あ、そがんやって言うて、私は横しばひよっと見たらですね、市の職員も2人ほどおつて、その職員の名前は楠原くんと森くんだったんですけども、そういう加勢にきとうとばいねって思いながら、自分は杵島山に登って帰ったんですね。

ところが、帰りに見たらこういうふうなんです、まだ。これまさに自分の山ではない。ボランティアなんです、実は。こういうふうな状況の中ですよ、里山資本係が何をするのか。言うだけやったらだれでも言うです。けども、実際こういうふうにごみが捨てられている中で、里山資本係が何をされるのかというのが疑問であったもんですから、一番初めに里山資本係ってなんばすつとですかって聞いた。こういうふうな状況ですよ、なんば植えるですか。

市長、答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

まさに地域で荒れた里山を自分たちの力できれいにして、そこを再生させていこうと、保全させていこうという取り組みを応援するのが里山資本係の大きな役割であるというふうに考えております。

一方でこういった、——私も先日、地元の川良の柏岳の清掃活動、私は前柏岳だけだったんですけども、そちらに行って同じように回収をしてきました。

非常にこれは大事な事業というか、取り組みであるというふうに思っております。やはり、きれいにするというのは、人の心もきれいにするというので、こういった取り組みは安心・安全のまちにもつながると。ともに里山資本係のやっていることも、そしてこういったボランティアの皆さんがされていることも、ともにこの町にとっては大事であると、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

18 番山口昌宏議員

○18 番（山口昌宏君）〔登壇〕

実際問題として、里山資本係というのが、何を植えられるのかわかりませんが、じゃあこれをまずやってからやるのが道じゃないかと思うんですね。

もとに戻りますけれども、これをされてた皆さん方、区長さんですね、区長さんがお見えで、それに中島さん、山崎さん、森さん、楠原さん。これ日にちが書いてある、1月23日、24日は大雪やったんですね。23日物すごく寒かったとですよ。23日物すごい寒かって、もう8時半ぐらいには汗どろどろになってから仕事しよらしたとですよ。

それで、うちん山にうしてとったけんがって言われたけん、そのままでのみにして私は行って、本当にすまんやったなと思ってですね、そのときに総務課の水町課長さんに電話したわけです。あのときすまんやっただ。今、楠原くんたちが、恐らくまだしよった、しようけんが電話ばしてくれんや。ごめんやったのと言うてですね、そして写真ば撮っとってくださいと。写真ば撮うごと言うとってくださいんやと。

こいだけボランティアでしよったと、してくれたという跡形は、やっぱり市民として、一市民としてですよ、一人間としてやっぱり知っとかんばいかんとやないかと。それをしてくれたのが、やっぱり総務課の課長である水町くんが、これはやっぱりしとかんばいかんって言うてしてくれたのが、この今回の一般質問のきっかけなんです。

ここで表をもらったんですね。不法投棄廃棄物一斉点検って。ばってんですね、ここに書いてあーしこ、全部で50カ所ぐらいしか書いてないんですけども、各町単位で。ところが世の中ってのは、そが甘うなかとですね。この中でも山の中に入るとは私が一番多かと思うですけども。とにかく行く山ごとに、どっちかといえば道下。道下は、ほとんどごみの山です。100カ所、200カ所の話じゃなかとですね。そいけんが里山資本係、——確かにその里山資本係でもらうともよかでしょう。じゃあ里山資本係がする前に環境の整備ばせんばいかんていう気持ちがあるんですね。

そこでお尋ねですけども、今後のその環境整備と里山資本の関係をどのような状態で持って行こうと思われるのかお尋ねをしたいと思っておりますけど、いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

やはり一番大事なのは、環境の保全であるというふうに考えております。

そのやり方として、先ほど申し上げましたとおり、里山資本係は地域で、あるエリアをきれいにしようと。そこに植えようという、そういう思いをサポートをすると。非常に全市的にされてますよね。私も先ほど申し上げましたけども、私もちょっと加勢をしたんですけれども、私が行ったときも楠原さんが環境課として来られていました。

そういった、やはりこの取り組みは非常に重要ですので、保全をするための、私は大きな意義のあることだと思っています。そこは環境課もこれからもサポートをしていくと、そういうふうな、まあ2本立てという大変ですけども、やはりこちらのほうはエリアが広いのですので、まずはここをきちっと市としてもサポートしていく、そして環境の保全につなげていく、安全なまちにもつなげていく、そのように考えています。

○議長（杉原豊喜君）

18番山口昌宏議員

○18番（山口昌宏君）〔登壇〕

何日目やったですかね。初日目の1番です。私は最終日の1番ケツです。初日の1番目のときですね、ふるさと納税という中で、1番議員さん（250 ページで訂正）が私も他市にふるさと納税をしておりますって。何番。（発言する者あり）

16番議員の宮本栄八さんやったですね。16番議員の宮本栄八さんがですね、私は他市にふるさと納税をしておりますって。自分の耳を疑ったですね。あれ、宮本議員さんやったらこれ一この人はと。議員さんが他市にしてですよ、何かをもらう。つまりこの議員さんはどこから報酬ばもらいんよんさあろうかなって、本当に疑問に思うたです。この他市に納税をした金を、地元の市に納税して——じゃあそのときに、その納税をされたその額で、これがこういうふうなのですかね、どれだけ片づくのかなと。

これが恐らく、私はですね、やっぱり人間の資質の問題だと思うんですよね。俺は武雄市のために納税ばすっぱいというのが、私は議員さんとしての役目じゃなかったとかなと。そいぎ、ここのごみば拾いよんさあ人たちにもジュース1本なりとひよっとするぎ飲ませられるかもわからんとですよ。（発言する者あり）その辺ばもう少し考えてですね、せっかく一般質問をされるのであれば、試しにしてみたぐらいに言うてもろうたらよかったとですけども、あっちこっちしようと言われる。

そがん話はここで堂々と言うべきもんじゃなかったと私は思うたとです。今後注意してくださいよ。（発言する者あり）

というのはですね、それともう1つ思うのは、これは事前審査にならんごと言いますけれども、貧困対策課といってなんじゃいろう、今度つくとかなんとかいう話もありよったですね。ばってん、この貧困対策課の新設も次の世代を担う子どもたちのために環境整備をす

るというつもりでされたと思うんですね。これも環境整備なんです。子どもたちのことも環境整備、里山資本も環境整備。

じゃあ、あまりにもこのかわいそうな言い方に、貧困対策なんてあまりにもかわいそうな言い方になる可能性もあるからですね、その辺を含めて考えんぎ、生活環境の全体の中を見たときに、市長としてですね、この考えはいかがなものかと思うんですけれども、いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

やはり、環境整備といいますと、こういった実際の自然の保全というところに加えて、やはり生活環境の整備、そして教育環境の整備、さまざまところがあると思っています。それは議員おっしゃるとおり、いずれも未来の武雄市の、まちの未来、あるいは子どもたちの未来をつくるためであるというふうに理解をしております。

その中で貧困対策ということで、私もここは非常に、悩んだ部分ではありますけれども、ここについては、きのうも申し上げましたけれども、係名とセットで、係名にこう希望があるものをする。そして課自体も、——まずは調査をしますけれども、——次のステージにいったときには、課自体も、名前も変わっていくのではないかというふうに思っております。

そういう点で御理解いただければというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

18番山口昌宏議員

○18番（山口昌宏君）〔登壇〕

環境問題ということで、環境問題は最後になりますけれども、先ほど佐賀新聞社の記者の方に、ちょっとこれ使わせてもらってよかですかと言うてからちょっと、はいよかですよということだったんで、——きょうの新聞に太陽光参入の話で、1万4,000件断念って書いてある。そいぎですね、1万4,000件断念ということはですよ、ここに最後に書いてあったですけれども、玄海原発の2号機から4号機の3基分に相当するって、九州全体で——の電力供給が賄えないと、太陽光の1万4,000件ですね。

じゃあ、先ほど市長が言いよった環境に、——要するに原発っていうとも、最終的にはなくさんばいかんのが事実だと私も思うんですね。でも再生可能なエネルギーの担保をされ、そして我々がこいでよかったのと言うまでは、何とかして我々も生き延びらばいかん。

我々の——だれかさんの質問の中にもあったように、我々の時代というのは、環境って言う時代になったのかなと思うくらいに、我々は、キュウリが、あるいはナスビがおやつだったんですね。その時代に生まれた、私たちは。キュウリば食うて、学校から帰えぎにゃあキュウリを食べておやつになして、それで柿もまだ熟れとらんと、もうひどう渋かごたとま

で食うて、そういうふうな生活をしながらずっと今の生活になってきたわけね。

だから何でもありっていうわけではないですけど、やっぱり環境というのは大事だと思うんですね、生きていく上で。やっぱりなくさんばいかんもんは、なくしていく。しかし、捨てたらいかんもんは捨てん。そういうふうな個々の自覚ば促して、行政としても促していただきたいなと思って、次の質問に行きます。

次の質問は、教育問題。

私の、教育問題って出しとうとはですね、今現在、奨学金——ある方から、山口さんって、奨学金は借りたけれども、いざ返すとなったときに利子付きの奨学金を借りてたと、利子付きの奨学金を借りてたら、利子だけ払いよったら元金が全く減らんばいって。それで結局払うてしもうたところが20年後やった。こい何とかしてもらえんやろかと。なんじゃい方法のなかるうかと。

返さあじよかごとしてくんさいって言んされんやったです。なんじゃいよか方法のなかるうかということで、国・県・市の奨学金の制度ってどういうふうな状態になっているのかをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

溝上こども教育部長

○溝上こども教育部長〔登壇〕

（モニター使用）ただいま、モニターのほうに出しております国・県・市の奨学金の主なものでございまして、まず最初に日本学生支援機構。これは10年ほど前まで日本育英会と呼んでいたものですが、国の分で対象は大学生。種類として、先ほどありましたとおり無利子と有利子がございまして。月額に対応額が、無利子は6万4,000円まで、有利子の場合には12万まで。これは学生が選択できます。この2つとも返済の期日というか、方法というか、20年以内に返済ということになっています。

続きまして、佐賀県の育英資金ですが、対象は高校生のみです。無利子。基礎額として1万8,000円プラスの私立の加算が1万2,000円。あと遠距離通学等でプラス2万円となっています。

最後が武雄市の奨学資金の分ですが、武雄市の分は高校生及び大学生が対象です。利息は無利子で、ありません。金額としては、高校生は月1万2,000円。大学生は2万円ということで、大学生になれば年額で24万ということになっております。

以上が現在の状況です。

○議長（杉原豊喜君）

18番山口昌宏議員

○18番（山口昌宏君）〔登壇〕

この話ばしよって市長がですね、私はですね、——今、市長は38やったですかね。

〔市長「9」〕

39 やったですかね。私は15年間払うたけんが、この間私払い終えたですもんねっていう話なんですね。それ払い終えたら市長になったっていうぐらいに、長う払わんばらんやったということですね。

それで、提案をどう受けとめられるかの話なんですけれども、例えば地元の企業さんに就職をする。どこかの大学に行って、地元の企業さん、武雄の企業さんに就職をしたばんと、しますよといったときに、じゃあ利子は、有利子の場合は、利子はもちろん免除しますよ、あるいは借りた分の半額を免除しましょうと。武雄市に戻ってきて、家ば継いでくるんないばそれは免除しましょうというようなことも考えられるんじゃないかと思えますけれども、どちらですかね、市長ですかねこれは。教育委員会ですかね。

教育委員会で答えてくれますか。

○議長（杉原豊喜君）

溝上こども教育部長

○溝上こども教育部長〔登壇〕

まず現在の、例えば市の奨学金につきましては、目的といたしましては、やはり教育費の支弁に苦勞されている御家庭の支援というのが目的でございます。

そういう中で今、議員さんのほうから御提案がございましたけれども、そういう、制度設計によっては地元雇用の確保対策、そういうものに大きく結びつくということで、効果は大きいのかなとは考えます。

そういう場合は、具体的な方法としては市の奨学金の制度を見直す、拡充する、あるいは先ほどありました日本学生支援機構、その部分の減資なり有利子への支援、いろいろ考えられます。

担当課といたしましても、一番課題はやっぱり運用の基金の面でございますので、それがクリアできれば、ぜひ制度設計等ですね、図ればというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

18番山口昌宏議員

○18番（山口昌宏君）〔登壇〕

今、基金の問題で制度設計が許されればという話なんです、じゃあ例えばですよ、——これ極端と言われれば極端かもわかりませんが、だって今、日本ではあってますよね。何とか財団基金とか、そういうふうなとですね、例えば武雄市と武雄市の企業さん、企業さんは武雄市にもいっぱいありますので、その企業さんと仮にですね、組んでといいますか、出し合って育英資金をつくると。

そして先ほど申しましたとおり、例えば武雄市に戻ってきて武雄市で生活をし、武雄市で仕事をするというときには、その資金の、要するに育英資金の、返すのを——もちろん利子

はないでしょうけども、半額なり、全額なり、例えば10年おおぎにやもう全額よかばんたと。全額はもう返さんでよかよと。大体10年おるぎ、10年一昔というぐらいやけんが、10年おったら——人間っていうのは不思議なもので、3日もつぎにやあ3カ月もつと、3カ月もつぎ3年もつて、3年もつぎ一生もてるということを信じながらですよ、例えば10年会社におってくれたらもう払わんでよかよというくらいの、資金のつくり方っていうのはできないのか。いかがですか市長。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今お話を聞いていて、大変おもしろくていいアイデアだなと思いました。もう一度言いますと、地元の企業の皆さんも入れて基金をつくる。そこから奨学金を出して、進学した後、地元へ帰ってきて、その企業で就職すれば幾らか奨学金が免除されたりするということですよ。

恐らく、そういうふうになると本人にとっても、そこは学びたいという、そういうふうな機会を奨学金で用意をする。さらには就職先と、雇用という点ですね、就職先という点もあると。当然、地元に戻ってくると家族も喜ぶと。あわせて地元に住んでくれると、やはりこれからの人口減少の時代に、市としても非常にこれはありがたい、喜ばしいことだなと思って、一石何鳥にもなるなというふうに思っています。

ぜひですね、これは進めていきたいというふうに思っています、早急に制度設計を行いたい。そのように考えています。

○議長（杉原豊喜君）

18番山口昌宏議員

○18番（山口昌宏君）〔登壇〕

結局は——最後に私、市長の政治姿勢についてということで出しておりますけども、政治姿勢イコール、例えば教育問題だって政治姿勢ですから、そのままの状態ですと質問をしたいと思っておりますけれども。

どなたかの質問の中で、代田校長、武内小学校の校長先生が退任されて、ふるさとの教育長になられるということでありますけれどもですね。ちまたでは、樋渡市政から小松市政になって、代田さんはおらんごとなったって。小松ちゃんば好かんやったとやろうかという話まではないですけども、小松さんになったけんが、代田さんが帰るんじゃないかという、そういうふうな心配もされているところ大いにあるんですよ。

そういう中で、帰った、じゃあ後のことについてどがんすつかというところが恐らく出てくるかと思うんですよ。そういう中で、じゃあ代田さんの、本人のかわりはならないでしょうけども、それに詳しい人とか、あるいはそれにかわる人をどうにかするという方法もあろうか

と思うんですけど、市長の考えとしていかがなものですか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

代田教育監には4月以降も特別顧問としてかかわっていただいて、武雄の教育を引き続き推進していただくというところがあります。

ただ一方で、私としてはこの教育、やっぱり武雄市の教育をさらに充実させていきたい、ICT教育、花まるの官民一体型学校を含め、さらに前に進めていきたいというふうに考えております。

そういうこともありまして、ことしの4月から文部科学省から1名派遣をしてもらうということで、現在文部科学省とは最終調整段階にきているところであります。

ぜひ、その文部科学省の方には、代田さん以上に武雄の教育に御尽力をいただきたいと。そして武雄の教育をさらに前に進めていきたい、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

18番山口昌宏議員

○18番（山口昌宏君）〔登壇〕

そいで来てもらえればですよ、小松市政にとっても、そしてこの後、ことしの4月から花まるをする3校、あるいは去年からし始めた2校、あるいはまだ今後やろうという学校すべて、——14校ですかね、武雄市は、学校は、——そのすべての学校の生徒たちがですね、やっぱり来てもらってよかったにゃと、小松市長やっぱりええとこやったばいって、文科省から連れてきて、——代田教育監の場合は、あの人はリクルートをやめて来られたんですけども、今回は、例えば文科省から来られるのであれば、現役ばりばりの文科省の役人さんでするので、より以上の成果が上がるんじゃないかと思うんですけども、最後に教育長として、この教育監となるのか、何になるのかわかりませんが、来られるのを前提として、教育長としての思いはいかがなものかと、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

代田教育監は10月——年度途中に来られまして2年半、単身赴任で精一杯頑張っていたかまして、地元の方々とも強力な連携関係で推進してもらいました。

合併して10年ではありますが、図書館初めICT教育、官民一体型学校づくり、さっきの食育もそうですけれども、極めて、市民の多くの方に協力いただいて、先生方も頑張っていたかまして、恐らく文科省が進めている施策の先取りとまではいかななくても、非常にすばらしい成果として頑張ってもらっております。

そういう意味で、今後の教育を考えたときに、広く深く、広い視野から頑張っていただけるものと期待をしておりますし、さらに今、地域との連携は文科省も強く言っておられますし、今私どもが取り組もうとしていることそのものでもありますし、貧困対策についても同様であります。そういう意味で非常に極めて強く期待をしておるところです。

○議長（杉原豊喜君）

18番山口昌宏議員（発言する者あり）

○18番（山口昌宏君）〔登壇〕

後ろのほうからやじの、ライバル関係になるとやなかろうかという話で、——浦郷教育長という方は、そがん心の、視野の狭か人やなかですよね。心の大きな人で武雄市を包んでいくと、教育を包んでいくという気持ちのもとで、今教育長をされておりますので、いらん心配ですから。

いずれにしても、官と民と一体となって、今から先、武雄市が進む方向はあら探しじゃなくって、みんなで協力しながらですね、武雄市政、武雄市が少しでもよくなるような、武雄市をつくっていこうという気持ちで、私はずっと今やってきておりますので、皆さん方もいろんな形で勉強されておりますので、今後とも一生懸命協力しながら頑張っていきたいと思えます。よろしく願いいたします。これで終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、18番山口昌宏議員の質問を終了させていただきます。

以上で、本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れさまでした。

散 会 15時20分